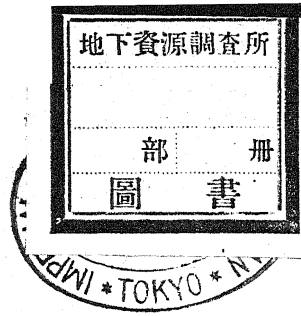


地質調査所報告

第二十六號



地質調查所報告第二十六號

明治四十四年六月

目次

第十一回萬國地質學會議及  
第二回萬國農地地質學會議

第十一回 萬國地質學會議及  
第二回 萬國農地地質學會議

第十一回萬國地質學會議及第二回萬國農地地質學會議

目次

第十一回萬國地質學會議	二頁
一 準備	二頁
二 經費	一五頁
三 會議ノ組織	一六頁
四 會員	一九頁
五 會議	二一頁
位 置	二一頁
委員會	二一頁
特別委員會	四一頁
總會及部會	四二頁

第二回萬國農地地質學會議

一 準備……………七八頁

二 經費……………八二頁

三 會議……………八三頁

組織及位置……………八三頁

會 員……………八三頁

委員會……………八五頁

總 會……………八八頁

會議附屬陳列、實檢旅行、會合等……………九七頁

一 陳 列……………九七頁

二 實檢旅行……………九九頁

三 招待及各種ノ會合……………一〇一頁

結 尾……………一〇五頁

# 第十一回萬國地質學會議及第二回萬國農地地質學會議

農商務技師  
地質調査所長

井上禧之助

第十一回萬國地質學會議ハ瑞典國「ストックホルム」ニ於テ開催セラレ  
參列者八百名ヲ超過シ未曾有ノ盛會ナリトス、又同時ニ同所ニ於テ本  
會議ト密接ノ關係アル第二回萬國農地地質學會議開催セラレタリ

## 第十一回萬國地質學會議

- 一 準備
  - 二 經費
  - 三 組織
  - 四 會員
  - 五 會議
- 位置 委員會 特別委員會 總會及部會

## 第二回萬國農地地質學會議

一 準備

二 經費

三 會議

組織及位置 會員 委員會 總會及部會

會議附屬陳列、實檢旅行、會合等

一 陳列

二 實檢旅行

三 招待及各種ノ會合

結尾

## 第十一回萬國地質學會議

一 準備

千九百年開催ノ第八回萬國地質學會議ニ際シ會員ノ多數ハ最近ノ會

議ヲ「スカンヂナヴィア」ニ於テ開催スヘキ希望ヲ發表シタレトモ其當時ハ不幸ニシテ其希望ヲ充タスニ至ラス、然ルニ千九百五年五月四日「ストックホルム」ノ地質學會ハ準備委員會ヲ組織シテ此問題ヲ委託シ、同委員會ハ必要ナル準備ヲ了シ政府ハ會議ニ必要ナル經費ノ豫算ヲ同國議會ニ提出シテ其承認ヲ經タリ、茲ニ於テ瑞典國ハ千九百六年墨西哥ニ於ケル萬國地質學會議ニ提議シテ次回ノ會議ヲ同國首府「ストックホルム」ニ開催スヘキコトヲ以テシ會員ノ贊成ヲ得、同會議ニ於テ此議ヲ決セリ、尙同國ハ必要ナル準備并ニ實檢旅行ニ關スル調査等ノ爲メ次回ノ會議ハ四年後(會議ハ每三年ニ一回開催スルノ規定ナリ)ニ於テ開催センコトヲ以テシタルニ之ヲ主催國ノ自由ニ委スルコト、ナレリ、即チ同國ハ千九百十年ニ第十一回萬國地質學會議ヲ開催スルコトヲ決セリ

爾後諸般ノ準備次第ニ進行シ千九百七年三月五日ニハ瑞典國地質學者及之ニ關係ヲ有スル鑛山學者等ノ總會ヲ開キ茲ニ會議ニ關スル事



項ヲ協議シ準備委員會ノ外ニ更ニ實行委員會ヲ組織スルコト、ナレ  
リ、其當初ノ實行委員會ノ會長ハ時ノ瑞典地質調査所長「Förnebohm 教授  
ナリシモ氏ノ所長退任ト共ニ「ストックホルム」大學教授 G. De Geer 氏其  
後ヲ襲ヘリ、實行委員會ノ職員左ノ如シ

會長 「ストックホルム」大學教授「ド、ジエール」G. De Geer

書記官長 地質調査所長「アンダーソン」J. G. Andersson

會計長 「ストックホルム」大學教授「ビクストレム」H. Bäckström

委員 「ストックホルム」博物館理事教授「ナトルスト」A. G. Nathorst 「ホ

ルム」S. G. Holm 「ルンド」大學教授「モーニン」J. G. Moberg 「キルナヴ

アラ、ゲリヴァラ」鑛山長「ルンドボーム」H. Lundbohm 「ストックホルム」

博物館理事教授 「シヨグレン」N. Sjogren 「ウプサラ」大學教授「ヘグ

ボム」A. G. Högbom 「ストックホルム」高等鑛山學校長教授「ペターソン」

W. J. Petersson 「ウプサラ」大學教授「サーナンダー」R. Sernander 「ゲテボルグ」

大學教授「ノルデンスキエルド」O. Nordanskjöld

今回ノ準備上從前ト異ナル所ハ組織委員會ヲ組織セサルコトナリトス、是レ蓋シ瑞典國ニハ地質學者ノ數少ク隨テ從前ノ如キ大ナル委員會ヲ組織セハ種々ノ方面ヨリ委員ヲ囑託セサルヲ得ス、斯ノ如キニ於テハ徒ラニ議論多ク實行ニ難キヲ以テナリ、而シテ前記實行委員會委員ト雖モ各地ニ隔リテ互ニ會合スルコト困難ニ、且ツ多數ノ會合ハ事ヲ處理スルニ便ナラサルヲ以テ更ニ De Geer, Andersson, Triekstöm 三氏ニ諸般ノ事項ヲ一任シタリ、是ニ於テ三氏ハ時々會合シ特ニ「アングーソン」氏專ラ準備ノ衝ニ當リ千九百七年ノ終リニ於テ略實檢旅行地域ヲ決定シタリ、斯クシテ各専門家ノ集合ヲ求メ其希望ヲ聽取シ指導者并ニ指導ノ順序、方法等ヲ定メ調査ノ不完全ナル所ハ直ニ之カ調査ニ從事スルコト、ナシ、之ヲ實行委員會委員ニ通知シテ其承諾ヲ求メ、其他ノ準備交渉ニ對シテモ亦同一ノ方法ニ據レリ、隨テ委員會ヲ開催セルコト比較的少ク爲ニ事務ハ大ニ進捗シタリト云フ

實檢旅行案内記編纂ニ對シテハ各専門學士ノ擔任區域ニ從ヒ其頁數

ヲ限レリ、然ルニ其報告ハ皆豫定頁數ヲ超過シ經費ニ非常ナル膨大ヲ來セリ、實ニ案内記ハ從前ニ比シ二倍ニ達シ爲ニ晝夜印刷ニ從事シ會議後ノ案内記ノ如キハ漸ク八月中旬ニ於テ之ヲ了セリ、蓋シ此國ノ地質ハ從來其報告及研究ノ結果等殆ト瑞典語ヲ以テ記述セラレ隨テ世ニ知ラレタルモノ少ク、今回ノ如キハ之ヲ紹介スルノ好機ナルヲ以テ實行委員會ニ於テハ經費上ニ大ナル苦心ヲナシ遂ニ英語、佛語又ハ獨語ヲ以テ之ヲ出版スルニ至レリ

想フニ瑞典國ハ歐洲ノ北方ニ偏在シ特種ノ國語ヲ有シ其版圖ハ南北ニ長クシテ北緯約五十五度ヨリ同七十度ニ跨リ、氣候寒冷ニシテ冬季ハ固ヨリ外業ニ從事スヘカラス、此國ノ地質調査事業ハ其詳圖ハ縮尺五萬分一ニ據ルト雖モ現時地質調査所技師ノ定員九名ニシテ既成區域尙僅少ニ、之ヲ歐洲ノ各國ニ比スレハ地質調査事業ハ未タ完成ノ域ニ達セス、隨テ其實檢旅行ヲ準備スルニ於テ少カラサル苦心ノ跡ヲ見ル、加之國土南北ニ長ク特ニ北緯六十一度以北ハ人口ノ稀薄ナルト共

ニ交通不便ニシテ一條ノ鐵路ノ通過スルニ止マリ、其地方ノ旅行ニハ數多ノ日子ヲ要シ又旅舎ノ數多ノ人員ヲ宿泊セシムルニ足ルモノナク準備上學術以外ニ苦心ノ少々ナラサルモノアリ、故ニ北部ハ固ヨリ南部ト雖モ金屬鑛山視察實檢旅行ノ如キ多數會員ノ旅行セル場合ニ於テハ瀛車中ニ宿泊スルカ然ラサレハ瀛船ニ據ルコト、ナセリ、而シテ言語不通ノ地ヲ毫モ不快不安ノ念ヲ生スルコトナク旅行スルコトヲ得セシメタルハ國人ノ品性ニ據ルト雖モ亦實行委員會委員ノ注意周到ナリシモノ與テカアラン

瑞典國ノ地質及鑛產物ハ其大要ハ既ニ世ニ知ラレタリト雖モ其詳細ナル記載ニ至リテハ唯瑞典語ニ於テ之ヲ見ルヲ得ルノミ、而シテ會議ニ於ケル國語ハ英、佛、獨ノ三個國語ニ限ラレタルヲ以テ今回會議ニ於テ能ク其國ノ地質及鑛產ヲ世ニ紹介シタリ、其功蓋シ大ナリト云フヘク而モ其苦心想像ノ外ニアラン

之ヲ要スルニ瑞典國ノ調査事業ハ歐洲ノ他ノ各國ニ比シテ未タ完カ

ラサルモノアリ、其版圖ハ歐洲ノ北部ニ偏在シ南北ニ長クシテ調査上  
時間ト費用ヲ要スルコト大ニ、北部ハ北極圈内ニアリテ交通ノ不便、人  
口ノ稀薄ナルト、自國語ヲ悉ク英、佛、獨ノ國語ニ翻譯セサルヘカラサル  
コト等ハ本會議ヲ準備スルニ於テ最モ苦心ノ存セシ所ニシテ之ヲシ  
テ遺憾ナカラシメタルハ實行委員會委員ノ經營ノ宜シキニ據リ其業  
決シテ容易ナラス

以上諸般ノ困難アリシニ關セス會議ニ關スル準備ハ着々進行シ、既ニ  
千九百八年ニ於テ世界ニ於ケル鐵鑛ノ鑛量及其分布調査ノ議ヲ決シ、  
實行委員會ハ各國政府ニ移牒シテ其贊助ヲ求メタルニ、歐米各國ノ外  
苟モ地質調査ヲ施行セル諸國ハ皆此舉ヲ贊シ、我日本ニ於テモ亦此議  
ニ贊シテ本土、朝鮮及支那ニ關スル調査ノ結果ヲ報告シタリ、而シテ其  
結果ハ千九百十年ノ初ニ於テ二部ノ大冊ト、一冊ノ附圖トナリテ公ニ  
セラレ世界ノ鐵鑛ノ多寡如何ハ之ニヨリテ略之ヲ知ルヲ得ヘク、本  
業ハ實ニ本會議ニ於テ大效果ヲ奏セルモノ、一タリ

次ニ特筆スヘキハ氷河時代後ニ於ケル氣候變化ノ調査ナリトス、此調査ニ關シテハ千九百八年瑞典國地質學者ノ問題トナレリ、本問題ハ獨リ地質學ノミナラス氣象、動植物ノ分布及人類ノ繁殖等ニ關係ヲ有スルコト大ナルヲ以テ遂ニ千九百九年六月實行委員會ハ之カ調査ヲ開始スルコトニ決シ各國ノ地質調査所、學會、學者ニ其事業ヲ贊助センコトヲ求メ、獨逸ノ如キハ特ニ地質學會ニ於テ論文ヲ募集シテ此事業ヲ助ケ其他ノ歐米各國ヨリモ亦調査事項ヲ報告シ、其結果ハ一ノ大冊子トナリテ公ニセラレ學術ニ貢獻セルコト多大ナリト云フヘク、本議會ニ於ケル事業ノ第二ト稱スヘキナリ

千九百九年五月實行委員會ハ第一回ノ通知書ヲ發表シテ各國ニ配布シタリ、即チ會議ハ千九百十年八月十八日ヨリ一週間瑞典國首府「ストックホルム」ニ於テ開會ス、其議題ハ實行委員會ノ提出セル問題并ニ會員ヨリ提出セル問題ノ討論ナリトス、實行委員會ハ瑞典國ノ地質研究ニヨリ解決シ得ヘキ議題ヲ選定シ、極地方ノ地質ニ關シテハ瑞典本國

ハ固ヨリ無所屬地タル「スピツベルゲン」ニ實檢旅行ヲ企圖シ之ヲ解決  
 センコトヲ期シタリ

實行委員會ヨリ提出セル議題ハ左ノ如シ

- 一 太古代地方ノ地質
- 二 氷河時代後ニ於ケル氣候ノ變化
- 三 世界ニ於ケル鐵鑛ノ鑛量及分布
- 四 極地方ノ地質

實檢旅行ニ關シテハ前述ノ如ク版圖十三度ニ跨リ之ニ加フルニ北緯  
 七十八度半ニ於ケル「スピツベルゲン」ノ實檢旅行ヲ企圖シ、氣候ノ關係  
 上北部ニ於ケル實檢旅行ヲ會議前ニ施行スルコト、ナシ、會議中ニハ  
 「ストツクホルム」近郊、會議後ニハ中部及南部瑞典并ニ「スカニア」地方ノ  
 實檢旅行ヲ行ヒ、七月二十五日ニ初マリ九月十六日ニ終了スルノ豫定  
 ナリ、斯クシテ瑞典國ニ於ケル化石、火成岩、地質構造、氷河并ニ應用地質  
 ノ研究ニ資センコトヲ期セリ

第二回通知書ハ千九百十年三月發表シタリ、之ニヨリテ更ニ會議ノ組織ヲ明ニシ實行委員會ニ於ケル變動ヲ舉ケ、尙議題トシテ新ニ第五カムブリア紀動物化石ノ現出ニ就テノ一項ヲ加ヘ各議題ニ對シテ世界各國ノ學者ノ討議スヘキ論題及姓名ヲ記シ、以上ニ屬セサル學術上其他ノ報告ハ左ノ五部會ニ於テ之ヲ討議スルコト、ナシ其討議者并ニ姓名ヲ附記シタリ

第一部 一般地質及地方地質(地質構造)

第二部 岩石學及鑛物學

第三部 層位學及化石學

第四部 第四紀ノ現象(特ニ氷河)

第五部 應用地質學

實檢旅行ニ關シテハ更ニ詳細ニ其日程ヲ舉ケ其地方ニ見ル地質ヲ略記シテ各會員ノ選擇ニ任シ、此外特ニ極地方ノ標本ヲ陳列シ七月二十日ニ之ヲ開クヘキヲ言ヒ、尙旅舍ニ對スル注意ヲナシ約二十軒ノ旅舍



ヲ指命シ各其宿泊料等ヲ記シテ會議出席者ノ便ニ供セリ  
 第三回ノ通知書ハ七月ニ發表セラレ、會議ノ場所、會議中ノ日程ヲ舉ケ、  
 第十二回萬國地質學會議開催ノ場所并ニ年月ノ討議及次ノ特別委員  
 會アル旨ヲ記シ

一 氷河ノ萬國特別委員會

二 歐洲地質圖ニ關スル特別委員會

三 *Palaeontologia universalis* ニ關スル特別委員會

四 地質研究ニ對シ萬國協同調査ニ關スル特別委員會

五 地質學、古生物學及岩石學ノ萬國雜誌創始ニ關スル特別委員會

六 「スペインデアロフ」賞牌ニ關スル特別委員會

此外地下溫度ニ關スル特別委員會アル旨ヲ附記シタリ

更ニ左ノ三事項ノ提議アリテ會議ノ贊助ヲ得ンコトヲ求メタリ

一 北米合衆國地質調査所長「スミス」氏ヨリ世界ノ縮尺百萬分一標

準地質圖調製ノ提議

二 多數地質學者ノ要求ニヨリ實行委員會ハ會議期間ヲ三年トス  
ヘキヤ四年トナスヘキヤノ問題ヲ提議ス

三 地皮褶曲ノ研究ニ對シ萬國調査ニ關スル提議

實檢旅行ニ關シテハ種々ノ注意ヲナシ且ツ會議中ニ於ケル實檢旅行  
ヲ舉ケ陳列ノコトニ及ヒ、更ニ服裝、郵便、荷物等ニ關スル注意ヲ舉ケ、此  
ノ如クニシテ會議前ノ實檢旅行日ナル七月二十五日ハ來レリ  
會期中ニ於ケル日程即チ會議并ニ實檢旅行等ハ別ニ一冊トナシ之ヲ  
會員ニ配布シタリ、該小冊子ニハ日程ノ外「ストックホルム」ニ於ケル主  
要ナル博物館、學術研究所并ニ交通等ニ就テ記述シ各種ノ注意事項ヲ  
舉ケタリ、尙日程等ノ變更ハ其都度印刷ニ附シ會場ニ於テ會員ニ配布  
シ其注意甚タ周到ナルモノアリ  
瑞典國ノ地質ニ關スル著書、書籍ハ主ニ瑞典語ニテ發表セラレ外國人  
ノ之ヲ知ル容易ナラサルヲ以テ瑞典地質調査所ハ主要ナル著書ノ表  
ヲ調製シテ會員ノ便ニ供セリ

印刷物ハ陸地測量部印刷部ニ於テ印刷ニ付シタルモ文字ノ異レル爲メ校正其他ニ種々ノ煩雜ト困難アリシカ如ク、殊ニ鐵鑛及氣候ノ變化ニ關スル印刷ニ於テハ其苦心ノ容易ナラサルヲ知ルヘシ、然レトモ同國ノ地質學者ハ非常ニ奮勵シテ此大事業ヲ遂行シ其地質、鑛産等ニ關スル學術上并ニ技術上ノ成果ヲ世界ニ紹介シテ瑞典國ノ學術上ニ於ケル位置ヲ高メタルト共ニ其進歩ニ一新紀元ヲ劃シタルモノト云フヘク今後ノ進歩更ニ見ルヘキモノアラン

印刷物ハ印刷上非常ナル煩雜ト時間ヲ要スルノミナラス其經費モ亦甚ク多大ニシテ到底政府支出ノ經費ヲ以テ支辨スヘキニアラサルノミナラス、頁數ハ總テ豫定ヲ超過シ爲ニ豫想外ノ大冊トナリ其費用モ亦甚ク大ナリ、幸ニ陸地測量部長ノ好意ト印刷會社ノ義心トニヨリ特ニ經費ヲ要求セサリシヲ以テ經費ニ缺損ヲ生スルニ至ラサリシナリ、想フニ瑞典國ノ如キ從來開會セル諸國ニ比シテ地質學者ノ數少ク經費ノ支出意ノ如クナラサルノ國ニ於テハ地質學ニ關係アル學士、學會

等ノ援助ヲ要シ特ニ鑛山會社ヨリ特種ノ補助ヲ得、經費ニ對シテモ政府ニ次テ鐵鑛業調査會 (Jenkontoret)、「ゲリヴァアラ、キルナヴァアラ」鑛山會社ノ寄附アリ、其他間接ニ數多ノ會社及鑛山業者ヨリ援助并ニ經費ノ支出アリテ此事業ヲ大成スルヲ得タルナリ、蓋シ鐵鑛ノ鑛量及分布ニ對シテ調査ヲ進ムルニ至リシハ此間ノ消息ヲ洩ラスモノナリ

## 二 經費

經費ハ一國ノ内事ニ屬シ詳細ニ之ヲ知ルコト能ハサルノミナラス未タ精算中ニアリテ明ナラサルモ左ニ其大要ヲ舉クレハ

### 收入

(「クローネ」ハ我約五十四錢)

#### 政府支出

三三、五〇〇クローネ

#### 鐵鑛業調査會

一〇、〇〇〇クローネ

「キルナヴァアラ、ゲリヴァアラ」鑛山會社

一〇、〇〇〇クローネ

#### 合計

五三、五〇〇クローネ

此ノ如キ少額ヲ以テシテハ到底今回ノ如キ會議ノ經費ニ充ツルニ足ラス、幸ニ前述ノ如ク印刷會社、鑛山業者ノ義心、陸地測量部等ノ好意ニ

ヨリ少額ノ費用ヲ以テ多大ノ効果ヲ收メタルモノナリ、而シテ前述ノ外印刷物ニ就テ之ヲ見ルモ案内記ハ大學及地質學會ト協議ノ上地質學雜誌、大學紀要等ニ掲載シテ其印刷費ヲ節約シタリ、尙會議報告書ノ印刷ノ爲メ多大ノ經費ヲ要スヘク約三分ノ二ハ其費用タルヘシ、翻譯ニ對スル費用モ亦少額ナラス、實檢旅行ニ對シテハ鐵道院ノ好意ニヨリ殆ト鐵道賃錢ヲ半減セラレタルモ尙相當ノ支出ヲ要セリ、隨テ接待費甚タ僅少ニシテ一回會員ヲ招待シタルニ止レリ、蓋シ當國ノ如キ多クノ經費ヲ支出スルコト能ハス、故ヲ以テ各員獻身的ニ此事業ニ從事シ爲ニ却テ多大ノ功果ヲ收メタルモノナリ

### 三 會議ノ組織

本會議ハ千九百十年八月十八日ヨリ二十五日ニ至ル間瑞典國王「グスタフ」第五世陛下保護ノ下ニ開會セラレ役員ハ開會ノトキニ決定ス、實行委員會ニ於ケル役員左ノ如シ

實行委員會 Comité Exécutif

名譽會長 Gustave Adolphe 殿下

名譽委員 總理大臣「リンドマン」 Lindman 外務大臣伯爵「タウゼ」 Comte

「Paulke 内務大臣伯爵「ハミルトン」 Comte Hamilton 工務大臣「リンドストレ

ム」 Lindström 農務大臣「ニランダー」 Nylander 大學評議員伯爵「ウアハト

ムスター」 Comte Wachtmster 鐵鑛業調查會會長男爵「タム」 Baron Tamn 前

瑞典地質調査所長教授「テエーネボーム」 Thunebohm 「ストツクホルム」

博物館理事教授「ナトルスト」 Nathorst

會長 「ストツクホルム」大學教授「ド、ジエール」 G. De Geer

書記官長 瑞典地質調査所長教授「アングーソン」 J. G. Andersson

會計長 「ストツクホルム」大學教授「ヒクストレム」 H. Biickström

委員 「ストツクホルム」博物館理事教授「ホルム」 Holm 「ルンド」大學教

授「モーベルヒ」 Moberg 「キルナヴァアラ、ゲリヴァアラ」鑛山長「レントボー

ム」 Lundholm 「ストツクホルム」博物館理事教授「シヨグレン」 Sjögren 「ウ

ブサラ」大學教授「ハグボム」 Högbom 「ストツクホルム」高等鑛山學校

長教授「ペーターソン」Peterson「ストックホルム」高等商業學校教授  
 第二回農地地質學會議長「アンダーソン」Andersson「ウプサラ」大學  
 教授「サーナンダー」Sernander「ゲテボルグ」大學教授「ノルデンスキエ  
 ルド」Nordenskiöld

「ナトルスト」氏ハ當初委員ナリシモ名譽委員トナリ「アンダーソン」  
 氏新ニ委員トナレリ

書記官 高等中學教授「ヘンニヒ」Hennig「グレンジスベルグ」鑛山技師  
 「ヘドベルグ」Hedberg 鑛山技師「グラーク」Grube 瑞典地質調査所技師  
 「ヨハンソン」Johansson「シホル」De Geer「クヘンセル」Quensel

以上ノ外ニ會議中種々ナル雜務ヲ辨スル爲メ特ニ委員ヲ設ケ「ウプサ  
 ラ」大學ノ助教ヲ主任トナシ六名ノ婦人ヲ助手トシ、標本并ニ鑛産圖ノ  
 陳列ニハ地質調査所技師之ニ當リ、尙各會員ニ注意及告知ヲナス爲メ  
 特ニ議會階下ニ於ケル大ナル一室ヲ之ニ充テ入會、實檢旅行加入、出版  
 及出版物販賣及郵便物等ノ事務ヲ處理シ地質調査所技師之カ主任ト





委員ハ一人ニシテ政府、學會、大學ヨリ派遣セラレタルモノアリテ其人  
員ハ前掲ノ委員數ヨリ小數ナリトス

總計	會員	八七五	委員	二六三
日本	六	◎◎◎	諾威	九
獨逸	一七八	◎◎◎ ◎◎◎ ◎◎◎	モナコ	一
濠洲	四	◎◎◎ ◎◎◎	和蘭	一五
洪牙利	二五	◎◎◎ ◎◎◎ ◎◎◎	羅馬尼亞	一〇
白耳義	一八	◎◎◎ ◎◎◎ ◎◎◎	芬蘭	一七
伯刺爾	一	◎◎◎	瑞典	一九三
支那	一	◎◎◎	土耳其	一
丁抹	二二	◎◎◎ ◎◎◎	希臘	一
西班牙	九	◎◎◎	ニユーヅーランド	二
北米合衆國	七八	◎◎◎ ◎◎◎ ◎◎◎	葡萄牙	四
大英國	四九	◎◎◎ ◎◎◎ ◎◎◎	露西亞	五一
伊太利	三〇	◎◎◎ ◎◎◎ ◎◎◎	セルビア	一
ルキセンブルグ	一	◎◎◎	瑞西	一七
墨西哥	八	◎◎◎ ◎◎◎	ウヰルガイ	一

## 五 會議

### 位 置

會議ハ瑞典國首府「ストックホルム」ニ開催セラレ、會期中ハ特ニ各參同諸國ノ國旗ヲ阜頭ニ掲ケ歡迎ノ意ヲ表セリ、而シテ當初ノ事務所ハ地質調査所ニ設置セラレタルモ狹隘ナルヲ以テ開會日ニ近ク事務所ヲ王國議會ニ移シ、事務室、委員會室、特別委員會室、會員室、談話室等ヲ設ケ開會及閉會式ニハ王國音樂大學ノ音樂堂ヲ以テ、學術會議ニハ議會、華族會館、大學教室ヲ以テ之ニ充テ多數ノ會員ニ遺憾ナカラシメタリ會議ニハ委員會、特別委員會、總會、部會アリ

### 委 員 會

委員會ハ會議中最モ重要ニシテ學術以外ニ於ケル會議中ノ重要問題、殊ニ國際問題ハ皆本委員會ニ於テ討議決定シ總會ニハ單ニ報告ニ止レリ、委員會ハ萬國會議創設ノ際ハ左ノ諸員ヲ以テ組織セラレタリ

#### 一 萬國會議創立委員

- 二 萬國會議實行委員
  - 三 各國地質學會會長
  - 四 各國地質調查所長
  - 五 委員會ノ特ニ推薦セルモノ
- 其後各國ノ委員ハ之ニ列スルコトヲ許シタリ、第九回會議ニ於テ「ジュース」氏ノ發議ニ據リ次回會議ヨリ當初ノ規定ニ從ハンコトヲ決議シタリシモ第十回會議ニハ遂ニ實行セラル、ニ至ラス、今回ノ會議ニハ前述ノ如ク委員ノ數多ク遂ニ當初ノ規定ニ據ルコト、ナレリ、小官ハ地質調査所長ニシテ本邦委員タルヲ以テ之ニ列席スルヲ得タリ
- 委員會ニ於ケル國語ハ從來佛語ナリシモ今回ハ必スシモ佛語ヲ用キスシテ英獨語ヲ以テ討議若クハ報告シタルモノアリ
- 委員會ニ於テ議題トナレル事項報告二十以上ニ上レリ、實行委員會及會員ヨリ提出セル議題ハ次ノ如シ
- 一 北米合衆國地質調査所長「スミス」氏ノ世界ノ縮尺百萬分一標準

地質圖調製ノ提議

- 二 「ホツブス」氏ノ地皮褶曲ノ研究ニ對シ萬國調査ニ關スル提議
  - 三 「ストーレー」氏ノ地質ニ關スル總テノ物件交換ノ爲ニ萬國交換所設立ニ關スル提議
  - 四 「ヴァーゲン」氏ノ層位學字書出版ニ關スル提議
  - 五 「ベツカー」氏ノ淡水ノ化學的及器械的分析ニ關スル提議
  - 六 第十二回會議會合ノ場所及時日
  - 七 「バイシユラーク」氏ノ鐵鑛ニ對シ萬國調査ニ關スル提議
  - 八 「フリードレンデル」氏ノ萬國火山研究所設立ニ關スル建議
  - 九 「ホルスト」氏ノ人類化石研究ニ關シ萬國委員會設立ノ建議
- 委員會ハ十八日、二十日、二十二日、二十四日、二十五日ノ五日午前九時王國議會ニ於テ開會セラレタリ、本委員會ハ萬國會議ノ會長「ジエール」氏議長席ニ着キ書記官長「アンダーソン」氏書記官長タリ、書記官ニハ主ニ英國「ラックスフラルド」大學陳列館地相學講師「アロルジュ」氏之ニ當リ

白耳義地質調査所技師部長「ハレー」氏時々氏ヲ補助シタリ

議 事

十八日

出席者四十餘名ニシテ午前九時開會セリ、實行委員會會長「ジエール」氏議長席ニ着キ委員會委員ニ對シ歡迎ノ辭ヲ述ヘ、書記官長「アンダーソン」氏各國ヨリ派遣ノ委員ノ姓名ヲ披露シタル後、第十回會議ノ書記官長「ラードネー」氏第十一回會議ノ成立ニ對シ次ノ役員ヲ指名センコトヲ發議シ委員會ノ贊成ヲ得テ成立シタリ

前會長 「カペリニー」 「カルピンスキー」 「チーチエー」

「アギレラ」

會 長 「ド、ジエール」

書記官長 「アンダーソン」

會計官 「ベックストレム」

副會長 獨 逸 十名 「アルジエンチン」 一名

濠洲	一名	奧太利	三名
洪牙利	一名	白耳義	一名
加奈太	一名	支那	一名
丁抹	一名	埃及	一名
西班牙	一名	北米合衆國	八名
佛蘭西	八名	大英國	五名
伊太利	三名	日本(小官)	一名
墨西哥	一名	諾威	三名
和蘭	一名	葡萄牙	一名
羅馬尼	二名	露西亞	三名
芬蘭	二名	瑞典	二名
瑞西	三名	土耳其	一名

副會長撰任ニ關シ小官ハ書記官長ニ交滲ノ已ムナキニ至レル事件アリタルモ無事ニ之ヲ解決スルコトヲ得タルハ幸トスル所ナリ

書記官十名 六名ハ實行委員會ノ書記官ナリ、四名ハ外國人ニシテ  
 一名ハ白耳義地質調査所技師部長「ハレー」氏、一名ハ英國「ラックス  
 フォルド」大學陳列館地相學講師「アロルジュ」氏、一名ハ伯林地質調  
 査所技師「クラウゼ」氏、一名ハ露國ノ「バクルンド」氏

主權國以外ノ地質學士ヲ書記官ニ囑託スルノ件ハ其先例ナキニアラサルモ大ニ意ヲ用  
 キタルカ如ク、而シテ之ニ對スル報酬一モアルコトナク書記官長ハ此等諸氏ニ對シ慰勞  
 ノ宴ヲ設ケ及實行委員會ニテ出版ノ圖書ヲ贈呈シタリト云フ

是ニ於テ會長ハ會員ニ配付セル通知書ノ承諾ヲ求メテ其贊成ヲ得タ  
 ル後、書記官長ヲシテ各會議ノ議長ヲ左ノ如ク囑託センコトヲ發議シ  
 各員ノ贊成ヲ得タリ

十九日午前九時 *L'érosion glacière* 議長 *Emm. De Margerie*

同 午後三時 *L'apparition immédiate de la faune cambrienne* 議長 *C. Diener*

二十日午前十時 *La géologie des systèmes précambriens* 議長 *Ch. R. Van Hise*

同 午後二時 同上 議長 *Ch. Barrois*

二十二日午前十時 Les moyens pour la future industrie du fer de trouver le minerai nécessaire 議長 K. Schmeisser

Les changements du climat après le maximum de la dernière glaciation, doivent-ils être attribués aux causes locales ou aux causes générales? 議長 L. de Loësy

二十五日午前十時三十分 La géologie des régions polaires. 議長 A. Penck

第一部會 Géologie générale et régionale. Tectonique 議長 A. Heim

第二部會 Pétrographie et minéralogie 議長 J. J. H. Teall

第三部會 Stratigraphie et paléontologie 議長 H. Rautf.

第四部會 Phénomènes quaternaires. Glaciers actuels. 議長 F. Wahnschaffe

第五部會 Géologie appliquée 議長 W. Lindgren

此外ニ議長トシテ W. C. Brögger, G. O. Smith, P. Termier ヲ舉ゲテ各員ノ贊助ヲ得タリ

書記官長ハ委員ニ書類ヲ配付シタル後各國若クハ會員ヨリ提出セル議案ヲ朗讀シテ本會議ニ於テ之ヲ議了センコトヲ求メ午前十時閉會



シタリ

二十日

出席者約四十名ニシテ午前九時二十分開會シ「ジエール」氏議長席ニ着ク

當日ノ議題ハ

(一) 書記官長ハ更ニ副會長トシテ左ノ諸氏ヲ舉ケンコトヲ發議シ各員ノ贊成ヲ得タリ

獨逸三名 丁抹一名 瑞西一名 (人名略ス)

(二) 「バイシユラグ」氏ノ提案鐵鑛ニ關スル萬國調査 「バイシユラグ」氏ハ鐵鑛ノ必要ヲ論シ會議ノ中ニ萬國特別委員會ヲ設ケ各國ノ鐵鑛ノ調査ニ從事センコトヲ求メ、其委員ニハ地質學者及科學者ノ同數ノ人員ヲ舉ケ、地質學者トシテ米國「ケンブ」、英國「ルイス」、佛國「ドローネ」、露國「チエールニシエフ」、瑞典「シヨグレン」、獨國「バイシユラーグ」ノ諸氏ニ囑託センコトニ同意ヲ求メタリ、「チエールニシエフ」氏ハ同氏ノ提案ハ甚タ可ナルモ

右調査ハ地質學會議ヨリ寧ロ應用地質會議ニ屬スルモノナラスヤト  
質問シ、「バイシユラーグ」氏ハ氏ノ說ハ至當ナルモ尙以上ノ地質學者ノ  
委員會ノ委員タルコトハ甚タ必要ニシテ地質學者并ニ應用地質學者  
ヨリ成立セル委員會ノ設立ヲ望ミ、各員之ニ贊成セリ、「バイシユラーグ」  
氏ハ更ニ此委員會設立ニ關シ準備ニ着手スヘキヲ述ヘタリ

(三)書記官長ハ萬國火山研究所設立ニ關スル提議ニ就キ説明シタリ、即  
チ本研究所ニ於テハ火山破裂期間及破裂ノ際ニ於ケル地震、物理的及  
化學的研究ヲナスヘキヲ述ヘ、學術ノ中心ニ最モ近ク且ツ「ベスヴィア  
ス」火山ニ近キ「ネーブルス」ニ設立セン主旨ナルコトヲ附言シタル後、此  
議案及(四)(五)(六)ノ議案即チ「ホツプス」「ストーレイ」及「ヴァーゲン」氏ヨリノ  
提議ヲ審査セン爲メ審査委員ヲ舉ケンコトヲ求メタリ、是ニ於テ議長  
ハ此審査委員ニ左ノ諸氏ヲ指示シ各員ノ贊成ヲ得タリ

萬國火山研究所設立ニ關スル審査委員

「バルタチ」、「ズルター」、「ワルドネー」

(四) 地皮褶曲ノ研究ニ對シ萬國調査ニ關スル提議審査委員

「アダムス」、「ホーベイ」、「ゼーダーホルム」

(五) 地質ニ關スル凡テノ物件交換ノ爲メ萬國交換所設立ニ關スル提議  
審査委員

「バロア」、「クレードナー」、「ストラハン」

(六) 層位學圖書出版ニ關スル提議審査委員

「チイナー」、「キリアン」、「ロートプレツ」

書記官長ハ各審査委員會ハ次ノ月曜日ニ開會アラシメテ附言シタ  
リ

(七) ベツカー氏缺席ノ爲メスミス氏ハ同氏ニ代リ同氏ノ提案ヲ説明シ  
尙ベツカー氏ハ特別委員會ノ設立ヲ望マスシテ單ニ淡水ノ化學的并  
ニ器械的分析ニ關スル會議ノ意見ヲ聞カンコトヲ求メタル旨ヲ述ヘ  
タリ、是ニ於テ委員會ハ萬國會議ニ對シ各國ノ委員ニ大河及湖沼ノ水  
ノ化學的及物理的分析ニ關シ一定ノ方法ニ據リ其結果ヲ得ンコトニ

盡力センコトヲ求ムルコトニ決シ、午前九時五十分閉會

二十二日

出席者四十九名、本日ハ次回即チ第十二回會議開催地ニ關シ討議スヘキ日ナルヲ以テ前日ニ比シテ活氣ヲ呈セリ、午前九時十五分開會「ジエール」氏議長席ニ着ク

書記官長ハ左ノ諸氏ヲ副會長ニ舉ケンコトヲ發議シ各員ノ贊成ヲ得タリ

露國一名 「ブルガリア」一名 伊太利一名 (人名略ス)

白耳義政府委員ニシテ副會長ナル「アンドリモン」教授ハ起立シテ第十二回會議ニ關シテハ既ニ墨西哥ノ會議ニ於テ白耳義ニ開會センコトヲ發表シタリシモ更ニ本會議ニ於テ千九百十三年白耳義ニ開會センコトヲ再言ス、而シテ加奈太モ同希望ヲ有ス、而モ同國ハ白耳義ヨリ後ニ發表セルモノニシテ白耳義ハ先取權ヲ有ス、然レトモ本問題ハ本會議會員ニ依リテ決定セラルヘキモノニシテ例令次回會議ノ加奈太ニ

開會スルコトニ決スルモ白耳義國ハ敢テ惡感ヲ抱クコトナカルヘシ、若シ次回會議ノ加奈太ニ決スルカ如キコトアラハ第十三回會議ハ白耳義ニ開會ノ決議ヲナサンコトヲ望ム旨ヲ述ヘタリ

副會長ナル加奈太ノ「アダムス」教授起立シ、加奈太ハ曩日「グイエナ」會議ノ際萬國地質學會議ヲ開會センコトヲ發表セルモ其際ハ墨西哥ニ開會スルコト、ナレリ、即チ茲ニ再ヒ次回即チ第十二回會議ヲ開會センコトヲ宣言ス、此招待ハ加奈太政府、オンタリ、オ州廳ヨリ發セルモノニシテ更ニ茲ニ千名内外ノ鑛山技師ヨリ成レル加奈太鑛業會ヨリノ招待ヲ發表ス、而シテ政府ハ既ニ必要ナル金員ノ支出ヲ可決シ、加奈太太平洋鐵道會社ハ會員ニ特種ノ割引ヲナスコトヲ約セリ、加之加奈太ハ近時地質學上非常ナル發達ヲナシ地質、岩石ノ研究上趣味甚タ多カルヘク、構造地質學上ニハ東部特ニ趣味多ク、應用地質學上ニハ近年ノ發達ニヨリ種々ノ鑛産ニ就テ研究ヲ遂クルヲ得ヘキコトヲ述ヘタリ

「フレヒ」氏ハ加奈太地質學者ノ研究上ニ於ケル進步ヲ述ヘテ次回ノ會

議ヲ同國ニ開會センコトヲ贊シ、ヴァン、ハイス氏ハ深ク加奈太ニ贊シ  
同國ニ於ケル會議ハ大成功ヲ以テ結了スヘキヲ述ヘタリ、是ニ於テ「ア  
ンドリモン」氏ハ再ヒ起テ勵聲一番白耳義ノ地質ニ言及シ、第十二回會  
議開會ニ關シテハ委員會委員ニ切ニ其學術上ノ價值如何ヲ比較セン  
コトヲ求メ、白耳義ノ地質ヲ高地及低地ノ二ニ分テ、高地ニ於テハ變動  
セル火成岩ヲ研究スルヲ得ヘク、又「カムブリア」「サイリユリア」「デヴヲニ  
ア」石炭紀ノ諸岩層ヲ見ルヘク、更ニ石炭ヲモ見シ、構造地質學上ニハ數  
多ノ錐鑿及露頭ニヨリテ精細ニ之ヲ研究シ得ヘキヲ説キ、低地ニ於テ  
ハ第三紀層、第四紀層ヲ見ルヘク、尙氷河時代ノ研究ヲナスヲ得ヘク、其  
他石炭及水理等特ニ應用地質學上甚タ趣味多カルヘキヲ述ヘタリ、「ス  
ミス」氏ハ北米合衆國ヲ代表シテ加奈太ノ招待ヲ贊成シタリ、而シテ議  
長ハ本問題ノ決議ハ後日ニ讓ランコトヲ發議シ之ニ決セリ  
「チーチエ」氏ハ會議期間ヲ三年トナスヘキヲ將タ四年トナスヘキヲニ  
就テ討論センコトヲ發議セルニ、書記官長ハ白耳義并ニ加奈太政府ノ

招待ハ共ニ千九百十三年ナルヲ以テ三年若クハ四年毎ニ開會スルノ議ニ關シテ討議スルノ必要ナカルヘキヲ述ヘタルニ一同之ニ同意シ、九時四十五分閉會ス

二十四日

午前九時十五分開會ス、出席者五十餘名「ジエール」氏議長席ニ就ク、當日ノ議題ハ報告ヲ併セテ十三ニ上リ遂ニ悉ク議了スルヲ得スシテ其半ハ之ヲ後日ニ讓レリ

- (一)「ホルスト」氏提案人類化石研究ニ對シ萬國委員會設立ニ關スル建議ハ次回ノ會議ニ該研究ニ關スル綱目ヲ提出スルコト、ナシ、委員トシテ「ブーレー」「ブレンツガー」「グラムベルガー」「ルトー」「ソラス」「ウワシヤフエ」ノ諸氏舉ケラレタリ
- (二)「ブリユツクナー」氏ハ氷河特別委員會會長ノ名ヲ以テ該委員會ノ報告ヲナシタリ

- (三)「ウワンシヤフエ」氏ハ次回會議開會地ヲ決定スル爲メ各委員ノ投票

ヲ請求セルニ書記官長ハ白耳義委員ハレ一氏缺席ノ爲メ翌日ニ延期  
センコトヲ求メ之ニ決セリ

(四)「バイシユラーグ」氏ハ歐洲地質圖ニ關スル報告ヲナシ、該地質圖ハ略  
完成シタルヲ以テ更ニ之ヲ再版訂正スルコトニ決セル旨ヲ述ヘタル  
ニ、「ペンク」氏ハ委員ノ勞ヲ謝シ其學術上ニ裨益シタルコトノ大ナルヲ  
述ヘ、尙新版ニハ各幅ニ塗色記號ヲ附センコトヲ乞ヒタルニ「バイシユ  
ラーグ」氏ハ成ルヘク注意シテ之ニ從ハンコトヲ述ヘタリ

(五)「スミス」氏ハ世界ノ縮尺百萬分一地質圖刊行ニ關シテ意見ヲ述ヘタ  
ルニ、委員會ハ此問題準備ノ爲ニ歐洲地質圖委員會ニ加奈太ノ「プロツ  
ク」北米合衆國ノ「スミス」ウイリス「墨西哥」ノ「アギレラ」アルヂエンチン「ノ  
「カイデル」濠洲ノ「ダビド」ノ諸氏ヲ加フルコトニ決シ、更ニ此委員中ヨリ  
「バイシユラーグ」「スミス」「ジユース」「チール」及「チエル」ニシエフ「ノ諸氏ニ囑  
託シテ次回ノ會議ニ世界ノ地質圖作成ニ關スル綱目ヲ提出スヘキヲ  
以テシタリ



(六)「フリードレンデル」氏提案萬國火山研究所設立ニ關シ「バルダチ」氏審査委員會ノ報告ヲナシ、該研究所設立ニ關シテハ各國政府ノ好意若クハ個人ノ寄附金ニ據ルヲ可トシ萬國地質學會議ニ於テハ之ニ關與セサルコトニ決セル旨ヲ述ヘ一同之ニ贊成シタリ

(七)「ホップス」氏ノ提案ニ關スル審査委員會ニ關シテハ「ホーグ」氏ノ報告アリ、即チ本問題ハ本會議ニ於テ鐵礦及氣候ノ變化ノ研究ヲナセルカ如キ方法ニヨリ調査スルノ可ナルヲ認メ之ヲ次回會議ノ實行委員會ニ一任センコトニ決セル旨ヲ述ヘ一同之ニ贊成シタリ

(八)「ヴァーゲン」氏ノ提案ニ對シテハ書記官「アロルジ」氏其結果ヲ報告シ委員ヲ舉ケテ之ヲ編纂スルコトニ決セル旨ヲ述ヘ、「バロア」氏ハ該委員會ニ該字書ヲ第八回會議ニ於テ出版セル岩石學字書ト同一ノ體裁ニ據リ編纂センコトヲ切望シタリ

十時閉會ス

二十五日

午前九時二十五分開會、出席者五十六名、「ジエール」氏議長席ニ着ク  
書記官長「アンダーソン」氏ハ、「ストーレー」氏ノ提議ニナレル特別委員會  
ノ報告ヲ忘却セルヲ云ヒ、書記官「アロージ」氏ハ該委員會委員ハ、「ストー  
レー」氏ト協議シテ其結果ヲ午後ノ總會ニ報告スヘキコトヲ述ヘタル  
後「フレヒ」氏ハ *Paleontologia universalis* 委員會ノ報告ヲナシタリ

「ハレー」氏ハ地質學、古生物學及岩石學ニ關スル萬國雜誌創始ニ關スル  
特別委員會ノ報告ヲナシ、該文書發行ニ關シテハ之カ必要ヲ認ムルモ  
本會議ニ於テハ之ヲ爲サシテ歐米ニ於ケル大家若クハ出版業者ノ  
自由出版ニ委任スルコトニ決セル旨ヲ述ヘタルニ一同之ニ贊成シタ  
リ

「アギレラ」氏ハ「スペインデアロフ」賞牌委員會ノ報告ヲナシ、該賞牌ハ北  
米合衆國「ニュー、ヨーク」州博物館長「クラーク」教授ニ授與スルニ決シタ  
ル旨ヲ述ヘ、次回ノ問題ハ *A critical study of the great overthrust* トナスヘキヲ  
提議シ一同ノ同意ヲ得タル後、當該委員會委員ハ今回ヲ以テ滿期トナ

レルヲ以テ新委員ヲ選舉セラレンコトヲ附言セリ、是ニ於テ書記官長  
ハ新委員トシテ Aguilera, Barrois, Geikie, Högbom, Lugeon, Schmidt, Smith, Steinmann,  
Tschernyschew, Terrier 諸氏ヲ擧ケンコトヲ議場ニ計リ一同之ニ同意シタ  
リ

「ラルドネー」氏ハ地下溫度委員會ノ報告ヲナシ一同ノ同意ヲ得タリ  
本日ノ最モ重要ナル議事ハ第十二回萬國會議開催地選定ニシテ机上  
ニハ投票ノ爲メ加奈太、白耳義ト印刷シタル二葉ノ投票紙アリテ議場  
活氣ヲ呈セリ、第一ニ白耳義ノ委員「ハレー」氏ハ起テ二十二日ノ委員會  
ニ於テ白耳義ノ委員「アンドリモン」及予ハ白耳義地質學者ニ代リ萬國  
地質學會議ヲ我本國ニ招待シタリ、茲ニ次回會議開催地ヲ決定スルニ  
先チ予ハ更ニ尙數語ヲ附言セントス、即チ予ハ委員會委員ニ對シ白耳  
義ノ地質學者ハ三年後ニ「ブルセル」ニ次回ノ會議ヲ開催スルニ必要ナ  
ル準備ヲナシ得ルコトヲ特ニ告白ス、蓋シ吾人ハ諸君ヲ強請スルコト  
能ハサルモ若シ吾人小國ノ地質ニシテ諸君ヲ誘引スルコトヲ得ハ吾

人ハ大ニ名譽トシ且ツ大ニ歡喜スル所ニシテ、吾人ハ意ヲ盡シテ諸君ノ白耳義滯在中ニ自國ニ對シ愉快ナル好紀念ヲ印セラル、コトニ勉ムヘシ、然レトモ諸君ニシテ新開國ニ渡航スルコトヲ希望セラル、モノ多ク不幸ニシテ次回ノ會議開催地ノ加奈太ニ決定スルコトアルモ白耳義ノ地質學者ハ惡感ヲ抱クコトナカルヘク、吾人ノ目的ハ唯白耳義ノ地質ヲ諸君ニ説明シ及之ニ關聯セル趣味アル問題ヲ討議セントスルニアリ、而シテ次回ノ會議ノ加奈太ニ決定スルニ於テハ予ハ委員會ニ對シ特ニ千九百十六年第十三回會議ヲ白耳義ニ開催スルコトヲ決議セラレンコトヲ要求ス、斯クシテ前會議ニ於テ會議ヲ歐洲ト及歐洲以外ノ地トニ交互ニ開催スルコトノ希望ヲ充タスヲ得ヘキヲ信スト述ヘタリ、氏及去ル二十二日ノ「アンドリモン」氏ノ招待ノ辭ハ甚々懇切懇懃ニシテ其國情ニ訴ヘ自國ノ地質ニ及ヒ辯解甚タ力メタルモ大勢遂ニ動カスヘカラス、「チエル」ニシエフ「氏」ハ起テ委員ノ多數ハ加奈太ニ次回ノ會議開催ヲ希望スルヲ以テ投票ヲ用キサルヲ可ナリトスト

提議シタリ、「ハレー」氏ハ然ラハ次回ハ三年後ニ加奈太ニ開催シ、第十三回即チ千九百十六年ニハ白耳義ニ開催スルコトニ決議センコトヲ望メリ、「チエルニシエフ」氏ハ「ワシントン」會議ノ際委員會ニ於テ「ペーター」スブルク「會議」ニ關シ「ハレー」氏ノ發議ト同様ノ決議アリシコトヲ注意シタルニ、書記官長ハ墨西哥會議ノ際將來ノ會議ノ開催地ニ關シテハ決議セサルコトヲ決議セル旨ヲ注意シ、「バロア」氏ハ第十三回會議ハ白耳義ニ開催スルコトヲ望ム旨ヲ述ヘタリ、斯ク種々議論ノ末遂ニ白耳義ノ委員ハ加奈太地質學者ノ大ナル準備ト熱望トニヨリ次回會議ヲ加奈太ニ讓ルコトニ同意シタルヲ以テ委員會ハ全員一致第十二回會議ヲ千九百十三年加奈太ニ開催スルコトニ決定シ、尙白耳義委員ノ要求ニヨリ委員會ハ千九百十六年第十三回會議ヲ白耳義ニ開催スルコトヲ欲スル旨ヲ明ニシ本問題ヲ決定シタリ

西班牙國委員 Adan De Yauza 氏ハ第十四回會議ヲ西班牙ニ開催センコトヲ述ヘタリ

書記官長ハ「ヅワーゲン」氏ノ提議審査委員會ニ於テ「バロア」氏ノ要求即チ層位學字書ヲ第八回會議ニ於ケル岩石學字書ト同一體裁トナスコトニ同意セル旨ヲ報告シ一同ノ贊成ヲ得タリ

是ニ於テ議事結了シタルヲ以テ議長「ジエール」氏ハ起テ委員會委員諸君ノ援助ニヨリ遺憾ナク其職務ヲ終ヘタルコトヲ謝シ、委員會委員中ノ年長者ハ委員會ノ名ヲ以テ議長「ジエール」氏ニ深ク其勞ヲ謝シ、且ツ外國ノ地質學者ヲ歡迎セラレ、尙指導者トシテ遠ク「スピツベルゲン」ノ實檢旅行ニ加入セラレ、吾人ハ深ク満足ノ意ヲ表スル旨ヲ述ヘタリ  
斯クテ議長ハ閉會ヲ宣言ス、時ニ十時二十分ナリトス

### 特別委員會

特別委員會ハ前述ノ如ク其數甚タ多シ、小官ハ唯地下溫度ニ關スル特別委員會委員ニ舉ケラレタルノミナルヲ以テ其他ニ於ケル特別委員會ニ於ケル内容ハ明ナラサレトモ其決議ハ委員會ニ報告セラレタリ、地下溫度ニ關スル特別委員會ニ於テハ地熱測定ノ方法及器械ニ就テ

種々ノ議論アリ、尙地下溫度ニ就テハ種々ノ原因アルヘク、到底今日直ニ其方法及器械ヲ一定スルコト能ハサルカ故ニ次回ノ會議迄ニ各員ハ各其本國ニ於ケル測定ノ方法、器械等ヲ調査シ并ニ測定ノ結果其報告書名又ハ其拔萃ヲ委員長白耳義國「ハレ」氏ニ報告シ、同氏ハ之ヲ次回ノ會議ニ報告シ印刷ニ付スルコトヲ請求スルコトニ決セリ

### 總會及部會

總會及部會ニ於ケル議題ハ前述ノ如ク其數甚タ多ク、且ツ同時ニ數箇所ニ開會セラレ、加之農地地質學會アリ、委員會アリ、特別委員會アリテ各會議ニ列席スルコト能ハサリシヲ遺憾トス、會議ハ十八日、十九日、二十日、二十二日、二十四日、二十五日ノ六日間開催セラレタリ

十八日

開會式ハ王國音樂大學音樂堂ニ於テ舉行セラレ出席者約六百名ナリ、會場ハ國旗花卉ヲ以テ裝飾セラル、午後一時國王陛下ハ皇太子殿下、「ボナバルト」親王殿下、國務大臣并ニ實行委員ヲ隨ヘテ臨場セラレ會員一

同起立シテ敬意ヲ表セリ、一同著席ノ後皇太子殿下ハ英語ヲ以テ歡迎ノ辭ヲ述ヘラレ茲ニ第十一回萬國地質學會議名譽會長トシテ國王陛下ノ第一回總會ニ列席セラレ且ツ此會議ヲ開會スルニ就テ懇切ニ保護セラレタルヲ深謝シ、又各員ニ第十一回會議ニ瑞典國首府ヲ選ハレタルコトヲ謝シ、茲ニ數多ノ親愛ナル國民ノ地質學ノ代表者ヲ見ルヲ喜ヒ深く歡迎ノ意ヲ表セラル、而シテ各員ノ各其専門ニ隨ヒ研究上趣味多カラシコトヲ望ミ數多ノ實檢旅行ヲ企圖シ、各自ニ於テ瑞典國及其地質ニ關シ眞ノ智識ヲ得ラレ若クハ得ラレンコトヲ期待スル旨ヲ述ヘラレ、更ニ進テ地質學ト及其應用ニ就テ言及セラレ、昔時學術ハ實用ニ關セストナシ世ト隔離シタルモ近時學術ノ應用ハ多大ノ功果ヲ收メ鑛工業ノ大ナル發達ハ學術ノ研究及學者ニヨリ指導セラル、ニ至レリ、特ニ地質學ニ於テ然リトナス、地質學ハ其應用廣ク化學ト共ニ農業ニ資シ、鑛工業ニハ殊ニ其關係最モ密接ナリトス、故ニ本會議ニ於テハ世界ノ鐵鑛ノ分布及鑛量ノ調査ヲ施行シ非常ナル勉勵ト各國ノ



大ナル援助トニヨリ此事業ヲ完成スルヲ得、其結果三冊ノ大部ノ報告書ヲ公ニスルヲ得タルハ深ク謝スル所ナリ、尙實行委員會ハ氣候ノ變化ニ關スル研究ヲ遂ケテ人類發達ノ研究上ニ資料ヲ供給セリ、即チ該事業ニ從事セラレタル學者ニ對シ謝意ヲ表セラレ、終リニ再ヒ各員ヲ「ストツクホルム」ニ歡迎スルコトヲ痛言セラレ、諸君ノ行ク所ニ於テ瑞典人ハ諸君ヲ迎フヘク各員ノ瑞典國ヲ訪問セル好回想ヲ得ンコトヲ望マレ降壇アラセラレタリ

皇太子殿下ノ歡迎ノ辭終リタル後國王陛下ハ佛語ヲ以テ第十一回會議ノ開會ヲ宣言アラセラレ、皇太子殿下議長席ニ着カル  
前回會議會長「アギレラ」氏ハ簡單ニ第十回會議會長ニ選ハレタルコトヲ謝シ第十一回會議ノ成功ヲ望ミ、書記官長「ヨルドネー」氏ハ會議ノ事務ヲ引繼キタル後第十一回會議役員委員會ニ於ケルト同シヲ報告シテ會員ノ承諾ヲ求メ拍手ノ下ニ壇ヲ下レリ、是ニ於テ新會長ナル「ジエール」氏登壇シテ會長ニ撰舉セラレタルヲ謝シ、更ニ國王陛下、政府并ニ

本會議ヲ援助セラレタル諸君ニ謝シ、尙實行委員會會長トシテ會員諸君ヲ歡迎スル旨ヲ述ヘテ後、本會議ヲ開催スルニ就テ瑞典國ニ於ケル地質學者ハ小數ナルニ反シ瑞典國ノ版圖廣ク、遠ク北極地方ニ跨リ殊ニ「スピツベルゲン」ノアルアリ、加之國語ノ歐米ノ諸國ト異ナレルカ爲メ幾度カ本會議ノ開催ヲ躊躇シタル旨ヲ述ヘ、更ニ進テ瑞典國ハ他國ニ於ケルカ如ク種々ノ地層アルニアラスシテ其地質ハ主ニ古代及近代ニ限ラレ、而モ其研究ハ甚タ重要ニシテ趣味多キモノタルコトハ疑ヲ容レスト結ヘリ、氏ニ次テ書記官長「アンダーソン」氏ハ會議ノ成立及組織ニ就テ一言シ更ニ實檢旅行ニ及ヒ、本會議ヲ準備スルニ當リ議題ハ前回會議ニ於テ未定ノモノト、且ツ主ニ瑞典國ノ地質并ニ地質學者ノ研究ニヨリ解決シ得ヘキモノヲ選ヒ此等ノ準備ニ盡サレタル諸君ニ謝意ヲ述ヘ、殊ニ國王陛下并ニ皇太子殿下ニ深敬ノ意ヲ表シ、前書記官長ナル「バロア」「デーナ」「アルドネー」諸氏ノ會議ノ組織ニ對シ種々助力セラレタルヲ謝シ第十一回會議ノ成功ヲ以テ終ハラレンコトヲ祈

ル旨ヲ述ヘテ降壇シタリ

斯クシテ開會式ハ拍手ノ中ニ終リ會議ニ移レリ、「ジエール」氏ハ A Geol-  
chronology of the late 12,000 years ニ就テ氏ノ瑞典國ニ於ケル第四紀ニ對スル研  
究ノ結果ヲ述ヘ氣候ノ變化ニ及ヒ、動植物ノ遺跡、地層ノ一年間ノ堆積  
等ニヨリテ氷河ノ次第ニ北方ニ退却セルヲ證明シ、過去千二百年間ノ  
年表等ヲ示シ氣候ヲ正確ニ知ルコトヲ得ヘキ旨ヲ述ヘ數多ノ年表、幻  
燈ヲ用キテ説明ノ後降壇シ、次ニ「ヴァンハイス」氏ハ The influence of applied  
geology and mining industry upon the economic development of the world ノ演題ニ於テ現時  
ニ於ケル主要ナル鑛產物ハ鐵及石炭トシ銅之ニ次ク、蓋シ鐵器時代ハ  
紀元以前ナルモ鐵、石炭時代ハ十八世紀ニ創マレリ、鐵ハ交通ノ器械ト  
ナリ若クハ農業ニ用キラレ、工業ハ鐵ナクシテ發達スヘキニアラス、又  
大工業國ハ石炭ヲ多量ニ産スルノ國ニシテ即チ英、獨、米ヲ然リトス、而  
シテ石炭ノ今後幾年ニ盡クヘキヤハ容易ニ決定セラルヘキ問題ニア  
ラス、若シ其消費ニシテ現今ノ如ク増進ストセハ百年ニシテ盡クヘク、

現状ヲ維持スルモノトセハ英、獨ハ五百年乃至千年、北米合衆國ハ六千年ヲ持續スルヲ得ヘシ、故ニ各國共ニ次第ニ瀑布ヲ利用シ石炭ノ消費ノ減少ヲ計ルニ至レリ、隨テ水力ヲ有スルノ國ハ今後工業勃興スルニ至ルヘク「スカンデナビア」即チ然リ、且ツ同國ハ多量ノ鐵鑛ヲ有ス、今後ニ於テハ水力ト鐵鑛ヲ有スルノ國ハ恰モ今日石炭ト鐵鑛ヲ有スル國ト同等ノ位置ニ立ツニ至ルヘキヲ述ヘタリ

講演ハ拍手ヲ以テ終リ皇太子殿下閉會ヲ宣セラレ、國王陛下ノ退場ニ次キ午後三時一同退場シタリ

十九日

本日ハ總會ニ、部會ニアリ

午前九時開會

總會 議題 *l'érosion glaciaire*

議長 *Margerie* (副議長) 書記官 *De Geer*

(一) *Högbon: Die erodierende Wirksamkeit des Inlandsees in mittelschwedischen Urgebirgs terrain* 氏

ハ中部瑞典ニ於テ Inlandseis の太古代岩石ニ與ヘタル浸蝕作用ノ概要ヨリ論シ、斷層線ニ沿ヒ特ニ之ヲ研究スルコトヲ得タルヲ述ヘ、更ニ「ノルランド」ニ於ケル氷河時代ノ層序ニ及ヒ「ラブランド」ニ於ケル大ナル湖水ニ論及シタリ、(二) Penck: Die Glaciation in den Alpen 氏ハ「アルプス」ノ湖水ノ成因ヨリ論シ其流水ノ結果ニ由レルモノアルモ亦氷ノ爲メ成生セラレタルモノ多キヲ説キ、其浸蝕ヲ説明シタルニ種々ノ議論沸騰シ、或ハ「ペンク」氏ノ説ハ氷ノ作用ヲ認識スルコト大ニ過クルヲ攻メ、或ハ氏ノ説ニ賛成シ、或ハ北獨逸平野ニ於ケル特種ノ現象ヲ説キ、或ハ「スカニア」白堊紀ニ於ケル現象ニ論述スルモノアリテ可否ノ論甚タ盛ナルモノアリタリ、(三) Davis: American studies on glacial erosion 氏ハ會議ニ列席セサルヲ以テ議長ハ其遺憾ナル旨ヲ述ヘ「クエンセル」氏ニ之レヲ朗讀セシメタリ、(四) Rensch: The effect of glacial erosion in Norway 氏ハ幻燈ニヨリテ諾威ニ於ケル氷河ノ浸蝕作用ヲ説明シタルニ「ングボム」「ブレツガー」氏等ノ議論アリタリ、(五) Nordenskiöld: Die Fjorde und die Fjordgegenden 氏ハ「スビツヘルゲン」「アラ

スカ]及諾威ニ於ケル峽灣ノ數多ノ例ヲ引用シ其成因ニ及ヒ幻燈ニヨ  
リ之ヲ説明シタリ、斯クテ十二時三十分閉會シタリ  
午後三時ヨリ總會一及部會ニアリ

總會 議題 L'apparition immediate de la fauna cambrienne

議長 Diener (副會長)  
書記官 Hennig

本會議ニ於テ十一ノ講演アルヘキモ Jaekel 氏ハ會議ニ列席セス、隨テ同  
氏ノ講演ハ之ヲ省キタルモ尙十ノ講演アリテ充分討議ヲ盡ス能ハサ  
リシヲ遺憾トス

(一) Sollas: The fauna of the Proterozoic. 氏ハ「カムブリア」紀前ニ於ケル動物ノ發育ニ  
缺ケルモノアルヲ説キ、其期間ハ恰モ其後ニ於ケル期間ノ如ク殆ト計  
算スヘカラサル長期間ナルヘシト述ヘ(二) Daly: Some chemical conditions in the  
Pre-cambrian Ocean. 氏ハ缺席セルヲ以テ「アダムス」氏代演シ、「カムブリア」紀前  
ノ大洋ニ於ケル鹽水ノ化學成分ニ及ヒ其甚タ鹽分ニ富ムヲ以テ其當  
時動物ハ石灰若クハ硅酸分ヲ有スル能ハスシテ其状態ノ爾後ニ於ケ

- ルモノト甚々異なるルヘシト結ヒ、次テ (三) Walther: Die lithologischen Eigenschaften des Liegenden des Kambriums. (四) Sederholm: Sur les vestiges de la vie dans les formations progonozoiques.
- (五) Barrois: Sur l'origine du graphite dans les systemes précambriens. ニ於テ氏ハ石墨ノ有機物ヨリ成生セラレタルモノアルヲ説キ (六) Rothpletz: Enthalten die Kalkgerölle des unteren Spargenits Vorläufer der kambrischen Flora und Fauna? 氏ハ其然ルヘキヲ説キ、幻燈ニヨリ之ヲ説明シ諾威ヨリ採集セル材料ヨリ「ウーライイト」ハ「アラゴナイト」状ノ「アルジエー」ヨリ成生セルモノナルヘント述ヘタルニ、「ブレッガー」「リードル」氏等ノ議論アリタリ (七) Steinmann: Die kambrische Fauna im Rahmen der organischen Gesamtentwicklung. (八) Walcott: The abrupt appearance of the cambrian fauna on the North American Continent. 氏ハ缺席セルヲ以テ「リンドgren」氏代讀 (九) Hennig: The cambrian fauna of eastern Canada and southern New Foundland. (十) Evans: The sudden appearance of the cambrian fauna. アリテ、六時閉會シタリ

第二部會 岩石學及礦物學

議長ハ當初 Teall 氏 (副會長 英國委員) ナリシモ後 Groth 氏 (副會長 獨逸委員) 代レリ

書記官 Quensel.

(一) Benedicks : Le fer d'Övifisk : un acier au carbone natif. (1) Tschirwinsky : Notices sur la composition minéralogique et chimique des granites de la Suède. (11) Quensel : On the igneous rocks of the Patagonian Cordillera. ノ講演アリタリ

第五部會 應用地質學

議長 Lindgren (副會長) 書記官 Hedberg.

本部會ハ特ニ瑞典鐵鑛業調查會ニ於ケル鑛山圖陳列場ニ開會セラレ  
鑛力測量ニ關スル論題ニ就キ討議シタリ

(一) Tenggren : General view of the exhibition of mine maps. 氏ハ陳列セル地圖標本類ニ就テ説明シ (二) Petersson : Die magnetometrischen Untersuchungsverfahren. 氏ハ瑞典國ニ於ケル鑛力測量ノ進歩ヨリ論シ其功勞アル學者ヲ舉ケテ其結果ニ及ヒ  
現今ニ於ケル測量術ヲ述ヘ (三) Carlheim-Gyllensköld : The magnetic survey of the Kiruna-Vaara Iron Ore Field. アリテ五時半閉會ス

二十日



當日三個所ニ講演及討議アリテ總會一及部會四開催セラレタリ  
 午前十時ヨリ總會一及部會ニアリ

總會 議題 *La géologie des systèmes précambriens.*

議長 *Van Hise* (副北米合衆國委員長) 書記官 *Quensel.*

- (一) *Högboom* : Pre-cambrian geology of Sweden. (二) *Adams* : The origin of the deep-seated metamorphism of the pre-cambrian crystalline schists. (三) *Sederholm* : Die regionale Umschmelzung (Anatexis), erläutert an typischen Beispielen. (四) *Terrier* : La genèse des terrains crétacés. (五) *Barrois* : Le métamorphisme de profondeur en Bretagne. (六) *Coleman* : Metamorphism in the pre-cambrian of northern Ontario. (七) *Lane* : The stratigraphic value of the "Laurentian." マリテ十二時閉會ス
- 第一部會 一般地質及地方地質(地震學ノ問題討議)

議長 *Heim* (副西委員長) 書記官 *Backlund*

- (一) *Hobbs* : Fracture systems of the earth's crust (二) *Stille* : Senkungs-, Sedimentations und Falungsräume. (三) *Reid* : Faults and earthquakes. (四) *Tarr* : The advance of glaciers in Alaska as a result of earthquake shaking. (五) *Rudolph* : Die geographische Vertheilung der Epizentralgebiete von Walbeben

und ihre Beziehungen zum Bau der Erdrinde.ノ講演アリタリ

第四部會 氷河(第四紀ノ現象)

議長 Wahnschaffe (副會長) 書記官 De Geer

氷河ニ關シテハ既ニ前日大議論アリ、本日ノ論戰亦盛ナリ、(一) Lepsius: Die Einheit und die Ursachen der Eiszeit in Europa 氏ハ氷河時代及其浸蝕ニ就テ論シ其當時ノ地勢ニ及ヒ、「アルプス」ハ今日ヨリ千五百米、「バヴァリア」ハ六百米、「スカンヂナヴィア」ハ二千米乃至二千五百米、北獨逸ハ五六百米高カリシコトヲ論シ、更ニ進テ氷河時代ヲ三期ニ分チ、第一期 Boreal period ハ氷河ノ最モ盛ナル時ニシテ平均溫度ハ今日ヨリ九度若クハ十度低カリシナルヘク、第二期 Atlantic period ニ於テハ氣溫稍高ク氷河ハ退却ヲ始メ、第三期 Scandinavian period ニ於テ東西兩半球分離シ灣流生シ氷河ハ「スカンヂナヴィア」高地ニ退却シタリ、此時代ニ峽灣生シ、「アルプス」ノ湖水成生セラレ、歐洲ニ於ケル現今ノ地形ヲ形成スルニ至レリ、而シテ湖水、谿谷等ノ成生ニハ地動ノ關係大ナルモノアルヘキヲ論シタルニ、議論復ヒ

沸騰シ「ウワンシヤフエ」氏「ペンク」氏等ハ氏ノ説ヲ贊シ、「ブリュンクナー」  
 其他ノ諸氏ハ之ニ反對シタリ、次テ(二) Lozinski : Die periglaziale Fazies der mechanischen  
 Verwitterung (三) Kramberger : Eine jungglaziviale Störung im Löss Slavoniens ムリタリ

午後二時ヨリ總會一及部會ニアリ

總會 議題 La géologie des systèmes précambriens (午前ノ續キ)

議長 Barrois (副會長) 書記官 Quensel.

(一) Miller : The principles of classification of the pre-cambrian rocks, and the extent to which it is  
 possible to establish a chronological classification. (二) Sederholm : Subdivision of the pre-cambrian of Fen-  
 no-Scandia. (三) Kemp. Archaean rocks of the Athronadack area. (四) Coleman : Methods of classification  
 of the archaean of Ontario. アリタリ

第三部會 層位學及古生物學

議長 Ranch (副會長) 書記官 Hennig.

(一) Schrammen : Spongien-Forschungen in der oberen Kreide von Nordwest-Deutschland, mit Berücksich-  
 tigung der Kreide von Süd-Schweden. (二) Grabau : Ueber die Einteilung des nord-amerikanischen Silurs.

(三) Grabau : Continental sediments in the North American paleozoic. (四) Stefanesen : Sur la Dinotherium gigantissimum ノ講演アリタリ

午後三時ヨリ部會一アリ

第一部會 一般地質及地方地質

議長 Heim (副會長) 書記官 Backlund

本日ハ特ニ兩極地方ニ於ケル地質ノ討議ニシテ (一) Geer : Kontinentale Niveauveränderungen im Norden Europas. (二) Janner : A concise sketch of the geological observations made in north east Greenland by the Denmark-Expedition 1906-08. (三) Reinitzsch : Petrographische Ergebnisse der deutschen Südpolar-Expedition 1901-03 ヲリタリ

二十二日

本日午前總會ニアリ、共ニ會議前ヨリ調査ニ從事シタル事項ニシテ本會議中ニ於テ最も重要ナルモノタリ、即チ一ハ鐵鑛ニ關スル問題 Les moyens pour la future industrie du fer de trouver le minerai nécessaire. 二ハ氣候ノ變化ニ關スル問題 Les changements du climat après le maximum de la dernière glaciation, doivent-ils être

attribués aux causes locales ou aux causes générales? ナリトス

鐵鑛問題ニ關シテハ特ニ總理大臣ノ講演アルヘク、且ツ小官等ノ爲ニ特別席ヲ設ケ華族會館ニ於テ午前十時開會セラレタリ

鐵鑛問題討議

議長 Schmeisser (副會長) 書記官 Hedberg

議長ハ獨語ヲ以テ開會ヲ宣言シ、本問題ハ世界ニ於テ最も重要ニシテ瑞典國萬國地質學會議實行委員會ノ此大問題ヲ研究セルヲ賞贊シテ後瑞典國總理大臣ノ自ラ本會議ヲ開催センコトヲ約セラレタルハ本會ノ名譽トスル所ナリト述ヘ總理大臣ヲ演壇ニ麾ケリ、是ニ於テ總理大臣ハ演壇ニ進ミ英語ヲ以テ世界ノ鐵鑛調査ヲ開始シタル顛末、世界各國ヨリ到來セル調査書ノ豫想外ニ大部ノモノナリシコトヲ述ヘテ謝辭ヲ陳シ、小官ノ調査ニ言及シ、更ニ進テ天產物ノ利用ニ論及シ、之ヲ消費スルニハ將來ヲ顧慮シ消費セサル方針ニ向ハサルヘカラス、而シテ天產物ノ性質及其量ヲ知リテ後始メテ遺憾ナク之ヲ利用シ後來子

孫ヲシテ其利益ヲ受ケシムルコトヲ得ヘキナリ、若シ夫レ現ニ使用スヘキモノ及工業ニシテ天產物開拓ニ必要ナルモノ、如キハ浪費ト稱スヘカラス、即チ鐵ノ製造ノ如キハ鐵道ヲ延長シ商船ヲ増大スルニ必要ニシテ浪費ト稱スヘカラサルモ、石炭及瓦斯使用ノ不經濟ナル、鐵ヲ其鐵滓中ニ殘存セシムル、坑内ニ鑛石ヲ殘存セシムル、低價ノ鐵若クハ鋼鐵ヲ使用シテ充分ナル所ニ優等ノモノヲ用キル、若クハ技術家ノ必要ト思惟スルヨリ多量ノ材料ヲ使用スルカ如キハ皆浪費ニシテ最も戒メサルヘカラサルナリ、而シテ種々ノ天產物ニ就テ見ルニ其保存ノ年數甚タ區々タリ、瑞典國ニ於テ最も重要ナルモノハ瀑布ニシテ之ヲ利用シテ電氣ニ換フルニ於テハ以前當瑞典國ニ於テ使用セル動力ノ數倍ヲ得ヘク、又森林モ適度ニ之ヲ保存利用スルヲ要ス、斯クシテ其價格ハ毫モ減少スルコトナク却テ増大スルニ至ルヘク、實ニ燃料、材木其他ノ產物ヲ得テ氣候ヲ緩和シ水理ヲ治ムルヲ得ルニ至ラン、然レトモ石炭ト鐵トハ少シク其趣ヲ異ニシ一度使用セハ更ニ再ヒ使用スヘカ

ラス、故ニ瀑布及森林ヨリ更ニ一層浪費セサルコトニ注意シ一噸タリトモ之ヲ忽ニスヘキニアラス、而シテ從來ハ石炭ノ問題最モ緊要ニシテ其消費若クハ産出ノ如何ニ依テ其國工業ノ盛大ナルト否ラサルトヲ決定スルヲ得タリ、然レトモ當瑞典國ニ於テハ石炭ノ問題ハ不用ニシテ之ニ代フルニ水力ヲ利用シテ動力及熱ニ代用セントス、鐵鑛問題ハ獨リ吾人ノミナラス世界各國ノ重要視スル所トナリ、各國ノ立法者、政治家深ク之ニ注意シ、ルーズヴェルト氏北米合衆國大統領タルトキ既知鐵鑛及其他ノ材料ノ鑛量調査ヲ開始シ其利用ノ方法ヲ講センコトヲ發議シ、獨逸政府亦鐵鑛ノ調査ヲナシ當瑞典國ニ於テハ近時漸ク之ニ着手スルニ至レリ、是ヨリ氏ハ更ニ進テ鐵鑛調査ノ結果ニ及ヒ世界ニ於ケル鐵鑛ノ量ハ二百二十餘億萬噸、鐵ノ量ハ百餘億萬噸ナリ然ルニ年々ノ産出額ハ約六千萬噸ニシテ此鐵量ヲ以テシテハ僅ニ二百年ヲ持續スルニ足ラス、若シ夫レ從來ニ於ケルカ如ク産出額増大セハ即チ二十年ニシテ倍加セハ僅ニ六十年内外ニシテ鐵鑛ハ全ク消費セ

ラル、ニ至ルヘシ、茲ニ意ヲ強ウスルニ足ルハ此外ニ從來使用セラルヘキ鐵鑛量千二百三十餘億萬噸、鐵量五百三十餘億萬噸アルノミナラス、從來ノ經驗ニ徵スルニ未開國ノミナラス文明國ニ於テモ鐵鑛床ノ新ニ發見セララル、コトナリトス、即チ佛、獨ノ鐵鑛床、キユバ「伯刺西爾并ニ、スカンヂナヴィア」ノ北方ニ於ケル鐵鑛床ノ新發見ノ如シ、特ニ西班牙「ピルバオ」鑛山ノ如キハ鑛石殆ト採掘シ盡サレ十年前ニ於テ僅ニ十年ヲ支持スルニ止マルヘシト豫定セラレタルモ現今尙六千百餘萬噸ノ鑛石殘存シ今後十三年間採掘スルニ足ルト云ヒ、而シテ十三年後ニ於テモ尙鑛石アルヲ信セントス、此外ニ採鑛製鍊ノ技術兩ナカラ進歩シ將來現今使用スルコト能ハスト稱スル劣等ノ鑛石ヲ使用スルニ至ルヘク、又從來鐵ヲ使用セル所モ次第ニ他ノ材料ヲ充用スルコトヲ得ヘク、鐵鑛ノ問題ハ多ク悲觀スルヲ要セサルナリ、然レトモ以上ノ鑛量ハ大ニ吾人ヲ反省セシムルモノアリ、浪費ハ最モ戒メサルヘカラス、故ニ瑞典政府ハ目前ノ利益ノ爲ニ永遠ノ利益ヲ放棄スルヲ戒メ、鐵鑛業



ヲ民間ト共同事業トナセリ、而シテ瑞典國ニ於ケル鐵鑛ニアリ、一ハ燐  
ヲ含有セサル鐵鑛、二ハ燐ヲ含有セル鐵鑛ナリトス、燐ヲ含有セサル鐵  
鑛ハ瑞典國ノ中部ニアリテ「ダンネモラ」「ペルスベルグ」等之ニ屬ス、此鐵  
鑛ハ永年使用セラレ現今ニ於テモ尙木炭ヲ用キテ最優等ノ鐵及鋼鐵  
ヲ製鍊ス、然レトモ製鍊費ノ高キト、木炭ノ次第ニ高價トナレル爲メ其  
用途殆ト増進セス、故ニ採鑛ニ對シテ制限ヲ加ヘサルナリ、燐ヲ含有セ  
ル鐵鑛ハ北部ニアリテ「キルナヴァアラ」「ゲリヴァアラ」「スヅアバヴァアラ」等  
ヲ主トシ「グレンジスベルグ」ノ如キ二三ノ鑛山ノ中部瑞典ニアルモノ  
アリ、此等ノ鐵鑛ハ國內ニ燃料ナキ爲メ現ニ悉ク外國ニ輸出ス、氏ハ更  
ニ進テ鑛床發見者ノ權利ニ及ヒ、以前ハ鑛床ヲ發見スルトキハ發見者  
ノ所有トナリシモ後國ノ所有トナシ其一半ノ權利ヲ發見者ニ附與シ  
タリ、後更ニ官有地ノ多キ北部ニ於テハ全ク發見者ニ權利ヲ附與セス、  
遂ニ本年ニ至リ北部大鑛床附近ヲ政府ノ鑛業地トナシタリ、實ニ當國  
ニ於ケル大鑛床ハ「ゲリヴァアラ」「キルナヴァアラ」ナリトス、千八百九十八年

本鑛床ノ鑛石運搬ノ爲メ鐵道布設ニ際シ鑛石輸出ノ數量ヲ制限スルノ必要ナルヲ認メ一年百二十萬噸ト定メタリ、然ルニ鐵鑛ノ量多大ナルヲ知ルニ至リ、更ニ輸出數量ヲ増大セントノ傾向ヲ生シタルモ一時ニ其數量ヲ増加スルノ不可ナルヲ認メ遂ニ千九百七年政府ハ鑛山會社ト商議ヲ遂ケ、政府ハ「ゲリヴァアラ」「キルナヴァアラ」ヲ所有スル會社ノ半數ノ株券ヲ所有シ、尙其他ノ鑛山即チ「メルテーネン」「エクストレムスベ」ルグ「鑛山等ノ所有者トナリ、其代償トシテ政府ハ二十五年間一定ノ賃錢ヲ以テ「キルナヴァアラ」ヨリ七千五百萬噸、「ゲリヴァアラ」ヨリ千九百萬噸ノ鑛石ヲ運搬スヘク、此外尙會社ノ利益トナルヘキ數件ヲ約セリ、此數量ハ後ニ「スヴァバヴァアラ」鑛床ノ開坑ニ依リテ多少増大シタリ、而シテ二十五年後ニ於テハ或ル條件ヲ附シ政府ハ全山ヲ所有スルノ約アリ、尙政府ハ單ニ之ヲ輸出スルヨリ國內ニ於テ之ヲ處理スルノ必要ヲ認メ、議會ハ本年「ゲリヴァアラ」ヨリ五十基米南方ノ瀑布ヲ利用シテ水力發電所ヲ設立スルコトヲ決シ、斯クシテ電車ニヨリテ一回ニ二千噸ノ

鐵鑛ヲ運搬スルヲ得ヘク、尙水力ニ餘アリ、若シ夫レ「トロール」ヘツタンニ於ケル鐵鑛ノ水力電氣製鍊功ヲ奏スルニ於テハ本事業ニ一生面ヲ開クニ至ラン、此事業ハ目下政府ト鐵鑛業調査會ト共同シテ之ニ當レリ、是レ實ニ當國ニ於ケル近年ノ鐵鑛業狀態ノ大要ナリトス、氏ハ更ニ附言シテ政府ハ天產物ヲ遺憾ナク利用セシメサルヘカラス、而シテ之ヲナスニハ學術ノ力ヲ假ラサルヘカラス、即チ秩序アル研究殊ニ地質并ニ科學ノ調査ヲ遂行シ、學術ニヨリ成功シタル總テノ實業ヲ尊ヒ男女學生ノ學校ヲ去ルニ當リ天產物ノ經濟的利用法ノ價值ト其必要ナルコトヲ理解セシメサルヘカラス、氏ハ終リニ本討議ノ吾人ニ最モ必要ナル鐵鑛問題ノ解決ニ少カラサル功アルハ疑ヲ容レサル所ニシテ其單ニ萬國集會ニ於テ議題トナレル事實ノミヲ以テスルモ甚タ必要ナルコトヲ述ヘ拍手ノ下ニ降壇シタリ、次テ「ジヨグレン」氏登壇瑞典國ノ萬國地質學會議實行委員會ハ現ニ世界各國ニ於テ調査シタル材料ニ基キ鐵鑛調査ヲ開始センコトヲ決シ其結果ハ既ニ公ニセラレタルヲ

述へ其結果ハ尙未タ不完全ナルヲ免レヌシテ其鑛量ハ唯其概數ヲ得タルノミ、是レ蓋シ探鑛ノ後ニアラサレハ明ナラスシテ該調査ハ現時ニ於ケル鐵鑛ノ知識ヲ示スモノナリト云ヒ、更ニ世界ニ於ケル鐵鑛ノ分布ニ及ヒ、小官ノ後ニ送付シテ印刷スルコト能ハサリシ南滿洲及支那ノ鐵鑛ニ就テ一言シタル後、全世界ノ鐵鑛量ハ現今ノ調査ニ於テハ百餘億萬噸ノ鐵ヲ製スルニ足リ此外ニ尙後來使用スルニ足ルヘキモノ約其五倍アリ、即チ今後ノ問題ハ以上ノ鐵鑛ノ今後何年間鐵ヲ供給シ得ルカニアルモ亦嘗テ踏査研究セラレサル地方ニ幾何ノ鐵鑛ノ存スルヲ究メサルヘカラス、而シテ既ニ調査セラレタル歐洲、北米合衆國及日本ニ於テ千七百萬平方基米ノ面積内ニ鐵七十億二千餘萬噸、後來使用セラルヘキ鐵四百九十二億九千餘萬噸ヲ埋藏ス、若シ夫レ此割合ヲ以テ世界ニ鐵鑛ヲ埋藏スルモノト假定セハ以上舉クル所ノ地方ハ蓋シ全世界ノ百分ノ十三、三ニ過キサレハ全世界ニ於ケル總量ハ四千二百五十餘億萬噸ト計上セラルヘシ、蓋シ本問題調査ノ結果トシテ今

後ニ於ケル鐵鑛業ノ劣等ノ品位ノ鑛石ヲ使用セサルヘカラサルヲ知  
ルニ至レリ、即チ優等ノ鑛石ハ其頒布甚タ廣カラスシテ鑛石ニシテ百  
分中六十以上ノ鐵ヲ含有スルモノハ其鑛量十三億餘萬噸、後來使用セ  
ラルヘキ鑛量八億餘萬噸、即チ鐵トシテ一ハ八億餘萬噸、一ハ四億餘萬  
噸ニ過キス、而シテ此種良好ノ鐵鑛ノ三分ノ二ハ瑞典國ニ存在ス、蓋シ  
瑞典國ハ鐵鑛量ニ於テハ他國ニ劣ルト雖モ鑛石ノ良好ナルト搬出ニ  
便ナルトヲ以テ世界ノ市場ニ於テ甚シキ需用アリ、品位良好ナラサル  
モノニハ獨佛ノ *Minette Ores* 合衆國ノ *Banded Iron Ores* 熱帶地方ノ *Laterite Ores* ア  
リ、今後其利用ノ方法ヲ講スヘキモノニシテ其量莫大ナリトス、而シテ  
其利用ノ方法ヲ講スルハ科學ノ問題ニシテ本會議ノ範圍外ナリト結  
ヒテ降壇シ、次テ *Raman Adam de Yauza* 氏ハ西班牙ノ鐵鑛ニ就テ略述シ  
*L. de Lanney* 氏ハ缺席セルヲ以テ氏ノ提出セル *Les reserves mondiales en minerais*  
*de fer* ノ論文紹介セラレタリ、即チ世界ノ鐵鑛ノ鑛量ハ今後六十年ヲ支  
フルニ足ルノミナルモ此間ニ於テ種々ノ變動アルヘク、第一ハ製鍊ニ

於ケル進歩、第二ハ交通運搬機關ノ發達、第三ハ商業上ニ於ケル變動等ナリトス、製鍊ニ關シテハ優等ナル鑛石ノ最良ナルハ言フ須キスト雖モ劣等ノ鑛石モ之ヲ使用スルヲ得ルニ至ルヘク、今後ニ於テ電氣製鍊事業ハ決シテ忘却スヘカラサルナリ、交通機關ハ現ニ支那、亞非利加、伯刺西爾等ニ盛ニ發達シ今日使用スルコト能ハサル鐵鑛モ之ヲ使用シ得ルニ至ルヘク、斯クシテ商工業ノ變動ノ爲ニ新消費ノ中心生スヘク、此變動ハ吾人ノ思考スルヨリ速ナルヘシ、實ニ古工業國ニ於テハ鐵路ノ新ニ開通スルコトナキモ新興國ハ之ト趣ヲ異ニシ、今後五十年ニ於テ歐洲ノ各國ニ於テハ鐵鑛ノ缺乏ヲ感スルニ至ルヘキモ新興國ニ於テハ尙多量ノ鑛石ヲ抱藏スルナルヘシ、次テ「バイシユラーグ」氏ハ鐵鑛調査事業ノ成功ヲ激賞シ尙此事業ヲ繼續シテ其缺ヲ補フノ必要ヲ論シ特別委員會設立ニ及ヒ、該會ハ各國ニ於ケル斯業ノ官衙、學會、會社等ト共同シテ更ニ精細ニ鐵鑛ノ調査ヲ繼續スヘク、該會委員ニハ英國「

Louis 佛國 L. de Lamney 合衆國 J. F. Kemp 露國 T. Tschernyschew 瑞典國 H. Sjögren 獨國

F. Benschlag ヲ舉ケンコトヲ發議シ委員會ニ於テ可決セル旨ヲ述ヘ降壇シ、議長ハ之ヲ議場ニ計リ一同ノ贊成ヲ得タリ、次テ「ケンブ」氏ハ鐵鑛調査ノ必要ナルハ言ヲ須キサルモ石炭ノ調査ノ更ニ重要ナルモノアルヘシト述ヘ「リチャルズ」氏ハ鐵鑛業ニ水力ノ重要ナルヲ述ヘ將來ノ鐵鑛業ノ水力ヲ有スル「スカンデナヴィア」及「加奈太」ニ於テ大發展ヲナスヘシト結ヒ、鐵鑛調査ニ關スル討議ヲ終リタルハ既ニ正午十二時ナリ、斯クテ議長ハ各討議者并ニ此事業ヲ援助シタル諸氏ニ謝シ、殊ニ總理大臣ニ對シテ會議列席者ノ謝意ヲ表シ閉會シタリ

午前十時開會

氷河時代後ニ於ケル氣候變化ノ原因

議長 Loetz de Lozzy (副會長) 書記官 De Geer.

本會議ハ農地地質學ニ關係ヲ有スルモノニシテ爲ニ同會議ハ閉會シテ同會員ハ本會議ニ列席スルコト、ナセリ、而シテ本題ニ關シテハ二年前ヨリ各國ニ移牒シ共ニ調査ニ從事シ其結果ハ既ニ印刷ニ付シテ

各員ノ參照ニ供シ討議ニ便セリ、最初ニ專ラ本事業ニ盡力セル書記官長「アンダーソン」氏ハ起テ本事業ヲ援助シタル諸氏ニ對シ實行委員會ニ代リテ深厚ナル謝意ヲ表シタル後、氏ノ研究ニ係ル瑞典、「スピツベルゲン」、伊太利、希臘ニ關スル調査ヲ報告シ、氷河時代ニハ非常ナル大雨ノ爲ニ氣候甚タ寒冷トナリシナルヘク、次テ氣候上昇スルニ至レリ、蓋シ此氣候ノ變化ハ全世界ヲ通シテ同時期ナリシヤ否ヤハ之ヲ決定スルコト困難ナリ、而シテ氷河時代後一時現今ヨリ高溫度ノ時期アリテ北極圈内、「スカンデナヴィア」及北亞米利加ノ北部ニ於テ之カ痕跡ヲ見ルコトヲ得ヘク、氷河時代前後ノ氣候ノ變化ハ蓋シ天體ニ關係ヲ有スルモノ、如ク、大西洋及南海ノ海岸ニ見ル氷河後ノ氣候ハ地球ノ表面ニ於ケル高低ノ如キ地文學上ノ變化ニ關係ヲ有スルモノ、如シト述ヘ、次テ「ブリュクナー」氏ハ最近ニ於ケル氣候ノ變化ハ第一ニ溫度ノ變化ニシテ其原因ハ全世界ヲ通シテ共通ナルヘキモ地方ノ狀態ニヨリテ其結果異ナルヘキヲ述ヘ、「ウエーコフ」氏ハ「スカンデナヴィア」ニ於ケル



調査、其結論及原因ニ就テ論述シ本問題ノ甚タ解決ニ困難ナルコトヲ述ヘ、地軸ノ一時ノ移動ニ關スル「エコルム」氏ノ說ノ最モ重要視スヘキコトニ及ヘリ、是ニ於テ議論沸騰シ「ペンク」「フレヒ」「ブランケンホルン」「アルクトウスキ」「ブロックマン」氏等ハ各其調査セル地方ニ就キ陳述シタル後各自說ヲ述ヘ、「シレジア」、埃及、南極等ニ於ケル調査材料ヲ提供シタリ、斯クテ本會議ハ正午十二時前閉會シタリ。

午後ニハ部會ニアリ

午後二時開會

第五部會 應用地質

議長 Lindgren (副會長 北米合衆國委員) 書記官 Helberg

(一) Kirdel: Die neueren Ergebnisse der geologischen Untersuchungen in Argentinien. 氏ハ「アルジエンチン」ニ於ケル近年ノ地質調査ノ結果ニ就テ略述シ (二) Ferguson: Gold deposits of the Philippine Islands. (三) Sjögren: The geological age of the different ore types of the Scandinavian peninsula. 氏ハ各鑛產地ノ地質年代ヲ定ムルコト困難ナルヲ

述へ、之ヲナスニハ、鑛石ト成因上ノ關係ヲ有スル噴出岩ノ時代ヲ定メサルヘカラス、斯クテ氏ハ各地ニ於ケル太古代噴出岩類ヲ略述シテ太古代及「カムブリア」紀ノ地質ヨリ「カムプロ、サイルリア」後ノ噴出岩ニ及ヒ、「スカンデナヴィア」ニ火山活動ノ時期アルヲ述へ、之ヲ四期ニ區別シタリ、即チ第一期、古期太古代ニハ噴出ハ數次ニ起レリ、第二期、新期太古代ニハ激甚ナル活動或ル地方ニ起レリ、第三期、上部「サイルリア」紀、第四期、「デヴォン」紀ニハ、「クリスタニア」盆地ニ激甚ナル活動アリタリ、而シテ此等ノ噴出ニ伴ヒテ瑞典國ノ主要ナル鑛産物ハ生シタルモノニシテ中部瑞典ノ鑛産地ハ第一期ニ、北部「ボスニア」ニ於ケル鑛産地ハ第二期ニ、諾威黃鐵鑛産地ハ第三期ニ、「クリスタニア」地方ノ鑛産地ハ第四期ニ屬セリト結ヘリ (四) Krusch: Die Lagerstätten von radioaktiven Mineralien und die Radiumproduktionsbedingungen. (五) Lyon: Les formations aurifères en France アリタリ

午後三時開會

第三部會 層位學及古生物學

議長 Rauch (副會長) 書記官 Hennig.

(一) De Regny : Le paléozoïque des Alpes Carniques. (二) Renz : Das Palaeozoium Griechenlands. (三) Torre : A jurassic horizon in western Cuba. (四) Torre : Restoration of Megalocetus rodens, and discovery of a continental pleistocene fauna in central Cuba アリタリ  
 以上ノ外午後三時臨時會トシテ第四部會 Glaciers phénomènes quaternaires ノ討論ヲ繼續シ Raven : Roter Geschiebelehm als interglaziales Verwitterungsprodukt 及 Jentsch, Salomon, Dechy, Steinmann, Heim 氏ノ講演アリタリ

二十四日

午前十時ヨリ總會一、部會三アリタリ、午後會議ナシ

午前十時開會

總會 議題ハ L'apparition immédiate de la faune cambrienne. ニシテ十九日ノ討議ヲ繼續セリ、議長ハ Dienar (副會長) 氏ナリ

第一部會 一般地質及地方地質

議長 Heim (副會長) 書記官 Backlund.

(I) Schmidt: Ueberfaltungen und Ueberschielungen alt-kristalliner Schiefer neber Mesozoicum in den Schweizeralpen. (I) Baltzer: Geologische Bilder aus der Schweiz. (II) Sederholm: Ueber Bruchlinien, mit besonderer Beziehung zur Geomorphologie von Fennoskandia. (III) Hennig: Le conglomérat pleistocène à Pecten de l'île Cookburn, Terre de Graham. (IV) Murgooi: Synthesis of the Carpathians. (V) Anderson: Matavamu, a new volcano in Savvai (German Samoa) ハッサン

第二部會 岩石學及鑛物學

議長 Teall (副會長) 書記官 Quensel.

(I) Krenner: Ein wenig bekanntes Phosphat aus Cornwall. (II) Adams: An experimental investigation into the flow of rocks. (III) Vogt: Die Bedeutung der physikalischen Chemie für die Pétrographie. (IV) Day: Are quantitative physico-chemical studies of rocks possible? (V) Cross: Some remarks about the classification of igneous rocks マリタリ

第四部會 氷河、第四紀ノ現象

議長 Wahnschaffe (副會長) 書記官 De Geer.

(I) Coleman: The Lower Hunonian Ice Age. (II) Manson: The significance of early and of pleistocene

glaciations. (三) Jentsch : Die Lepidotaxis der Glacialbildungen. (四) Menzel : Das Problem der Anodonten.

(五) Pessi : Théorie de l'âge glaciaire アリタリ

二十五日

本日ハ閉會當日ニシテ午前十時總會十一アリタリ  
午前十時開會

總會 議題 La géologie des régions polaires.

議長 Benck (副會委員) 書記官 Backlund.

「ナトルスト」氏學士院ヲ代表シ登壇シ同院ニ於テ出版ノ兩極探檢ニ關  
スル瑞典國ノ Bibliography ヲ進呈スヘキヲ述ヘ、之ニ依テ見ルモ瑞典學士  
院ハ其創立ノ當初ヨリ兩極地方ノ探檢ニ對シ力ヲ盡シ創立當時ノ院  
長「リンネ」氏ノ「アントン、マルチン」氏ヲシテ探檢ニ從事セシメタルハ實  
ニ千七百五十七年ナリトス、爾後一世紀ヲ經テ「トレル」氏ノ第一回第二  
回ノ北極探檢アリ、而シテ瑞典國ニ於ケル北極探檢ハ皆地質學者ニヨ  
リ指導セラレタルハ趣味多キコトタリ、即チ其指導者ハ「Torell, A.E. Norden-

skjöld, G. Nordenskjöld, J. G. Andersson 氏ナリトス、尙「スピツベルゲン」ニ關スル  
標本類陳列并ニ同地方ノ實檢旅行ニ對シ諸君ニ謝スルト共ニ瑞典國  
ノ南北極探檢ノ事績ヲ舉クレハ A. G. Nordenskjöld 氏ノ綠洲ノ探檢、千八百  
九十九年ノ瑞典國ノ綠洲探檢、「ヴェガ」探檢、O. Nordenskjöld 氏ノ千九百一年  
ヨリ同三年ニ互レル南極探檢等アリ、其費用ハ蓋シ三四百萬「クラウン」  
（「クラウン」ハ我約五十四錢）ニ上リ、内二百萬「クラウン」ハ「スピツベルグ  
ン」ノ探檢ニ使用セラレタリ、人口ノ寡少ナル當瑞典國ニ於テ此費用ハ  
決シテ少額ニアラス、而モ能ク之ヲ支出シタルハ政府并ニ個人ノ義心  
ニヨルモノニシテ吾人ノ深ク謝スル所ナリ、而シテ瑞典學士院ハ地質  
學會議ニ對シ大ナル趣味ヲ有スルヲ喜フト結ヒ、議長「ペンク」氏ハ學士  
院ニ對シ會員ニ代リテ感謝ノ意ヲ表シタル後、(1) Nathorst: Sur la valeur des  
fleurs fossiles des régions polaires comme preuves des climats géologiques. 氏ハ幻燈ヲ用キテ極  
地方ノ植物化石ニ就キ論述シ、此地方ニ成長セルモノト、他地方ヨリ海  
流ニヨリ此地方ニ運搬セラレタルモノトノ說ニ及ヒ、各時代ニ於ケル

植物化石特ニ第三紀化石ヲ詳述シ、多數ノ植物化石ハ極地方ニ成長セルモノナルコトヲ確言スルコトヲ得ト結ヘリ(一) Using : On the igneous complex of Himausak Greenland (三) Frech : Paleozoicum und Trias in Ellesmere Land. 次テ南極ノ研究ニ移リ(四) Nordenskiöld : Die geologischen Beziehungen zwischen Südamerika und dem angrenzenden antarktischen Kontinent. (五) David et Priestley : Geological notes of the British Antarctic expedition 1907-09. Sollas 氏代讀(六) Gourdon : Note sur les régions explorées dans l'Antarctique par les deux Missions Charcot. Margerie 氏代讀アリテ後「スピツベルゲン」實檢旅行ニ於テ視察シタル二三ノ報告アリ、終テ議長「ペンク」氏ハ北極地方ニ對スル瑞典國ノ探檢ニ對シ、尙本會議ニ於ケル設備ノ完備セルコトニ對シ謝意ヲ述ヘ、更ニ本會議前「スピツベルゲン」實檢旅行ハ時日短小ナリシモ豊富ニシテ趣味多キ結果ヲ與ヘタルコトヲ陳シ斯クテ閉會シタリ

閉會式

午後二時三十分王國音樂大學音樂堂ニ於テ開會、出席會員四五百名、會長「ジエール」教授議長席ニ着キ次ノ委員會ニ於ケル報告アリタリ

一 「ブリュクナー」氏氷河ノ委員會ニ於ケル經過ヲ報告シタリ

二 「バイシユラーグ」氏歐羅巴ニ於ケル地質圖ノ報告ヲナシ、歐羅巴ニ於ケル地質圖ハ既ニ殆ト完成セルモ舊刊ニ屬スルモノハ修正ヲ要スヘキモノ多キヲ以テ再版スルニ至ルヘク、尙北米合衆國地質調査所長ノ提案ニ基キ萬國ノ地質圖ヲ編成スルニ至ルヘク、爲ニ歐洲地質圖編成委員ノ外ニ歐洲以外ノ諸氏ヲ加ヘタル旨ヲ述ヘタリ

三 「フレヒ」氏 *Paleontologia universalis* ノ委員會ニ於ケル經過ヲ報告シタリ

四 書記官長「アンダーソン」氏ハ地質學、古生物學及岩石學ノ萬國雜誌刊行ニ關シテハ委員會ニ於テ其義務ヲ負擔スルヲ好マス、或ハ歐米ニ於ケル大家又ハ出版業者ノ此企ヲナスモノアルヘキヲ述ヘ、「スペイン」イアローフ「賞牌」ニ關シテハ今回ハ北米合衆國「クラーク」氏ニ授與スルコトニ決定シ次回ノ議題ヲ報告シ、地下溫度ノ委員會ニ於テハ次回會議ニ「白耳義」ノ「ハレー」氏ノ報告アルヘキヲ述ヘ、「ホップス」氏ノ提議ニ關シテハ今回ノ實行委員會ニ於テ世界ニ於ケル鐵鑛ノ供給及氣候ノ變



化ノ研究ニ於ケルカ如キ方法ニ依リ之ヲ研究スルコトニ決セルコトヲ述ヘ、グワードン氏ノ層位學字書ノ提案ニ對シテハ之ヲ編纂スルコトニ決定シ、フリードレンデル氏ノ火山研究所設立ニ關シテハ各國政府并ニ個人ノ盡力ニ依リ、ネーブルスニ設立センコトヲ欲シ、ホルスト氏ノ人類化石ノ研究ニ對シテハ、ホツブス氏ノ提案ト同シキ研究法ニ據ランコトニ委員會ニ於テ決定セル旨ヲ述ヘタリ

五 「アングーソン氏ハ次回ノ會議開催ニ就テ報告シ次回ノ會議開催ニ對シテハ白耳義并ニ加奈太共ニ之ヲ開催センコトヲ以テシタリ、然ルニ白耳義ノ委員ハ次回ノ會議ヲ加奈太ニ讓リタルヲ以テ委員會ニ於テハ千九百十三年加奈太ニ開催スルコトヲ決定シタリ、尙委員會ハ千九百十六年白耳義ニ開催センコトノ希望ヲ有スル旨ヲ附言セリ、次テ加奈太「モントリヲール」大學教授「アダムス」氏ハ三年後ニ諸君ヲ加奈太ニ歡迎スルコトヲ望ミ、尙本會議ニ於ケルカ如ク最モ力ヲ用キテ萬國地質學會議ヲ開催センコトヲ期スル旨ヲ述ヘタリ

以上ノ報告ハ拍手ヲ以テ迎ヘラレ斯クテ會議ハ全ク結了シタリ、茲ニ於テ議長「ジエール」男爵ハ起立シ第十一回萬國地質學會議ヲ閉ツヘキ旨ヲ述ヘ、會員ト分袖スルヲ惜ミ、茲ニ諸君ノ事業ハ我本國ヲ去テ再ヒ全世界ニ散布スヘシ、然レトモ吾人ハ學術ノ輝ケル廣キ邦國ニ於テ、太陽ノ沒セサル域ニ於テ互ニ連絡スルモノナリ、吾人瑞典地質學者ハ茲ニ諸君ト此地ニ邂逅シ共ニ此萬國共通ノ帝國ニ於ケル臣民タルノ感ヲ深カラシメタルニ對シ深厚ナル謝意ヲ表シ、諸君ノ歸國ニ際シ第十一回萬國地質學會議ノ愉快ナル記憶ヲ齎ラサレンコトヲ望メリ

英國地質調査所長「チール」氏ハ最モ熱心ニ瑞典地質學者ニ謝シ、其本國ノミナラス北極及南極地方ニ於ケル地質學上ノ功績ヲ舉ケ正ニ閉會セントセル會議ノ總テ成功セルコトヲ述ヘ深ク感謝ノ意ヲ表セリ、佛國巴里大學教授「バロア」氏ハ深ク本會議ノ開催ニ關シ盡力セラレタル實行委員會委員、殊ニ「ジエール」男爵、「アングーソン」、「ベクストレム」三氏ニ謝スルトコロアリ、最後ニ普國地質調査所長「バイシユラーグ」氏ハ熱

心ニ今回ノ會議ニ依リ得タル學術上ノ效果ヲ謝シ殊ニ會議ノ準備ニ  
參與セル瑞典人ニ對シ深厚ノ謝意ヲ述ヘ壇ヲ下レリ  
以上三氏ノ演說ハ非常ナル喝采ヲ以テ迎ヘラレタル後議長「ジエール」  
男爵ハ閉會ヲ宣告シ、第十一回萬國地質學會議ハ茲ニ閉會シタリ

## 第二回萬國農地地質學會議

### 一 準備

千九百九年ニ洪國「ブタベスト」ニ於テ農地地質學會議ヲ開キ各國政府  
ニ移牒シテ參列ヲ求メ併セテ參考標本并ニ調査材料ヲ送付センコト  
ヲ以テシタリ、而シテ同會議ヲ第一回萬國農地地質學會議トナシ、翌千  
九百十年本會議ト密接ノ關係ヲ有スル萬國地質學會議ト共ニ瑞典國  
「ストツクホルム」ニ於テ開催センコトヲ決議シ、同國地質調査所長ニシ  
テ同會議會長タリシ「ローチ」氏ニ其交渉ヲ委任シタリ、「ローチ」氏ハ其決  
議ニ基キ第十一回萬國地質學會議書記官長「アングーソン」氏ニ同會議  
ノ一分科トシテ農地地質學會議ヲ開催センコトヲ照會シタリ、是ニ於

テ同氏ハ同國ニ於ケル専門學士ニ會合ヲ乞ヒ本件ヲ附議シタリ、蓋シ同國ニ於ケル萬國地質學會議ハ其前年ヨリ準備大ニ進捗シ且ツ經費モ既ニ限定セラレタルヲ以テ農地地質學會議ヲ其一分科トシテ更ニ同會議中ニ加フルノ甚々困難ナル事情ノ存スルアリ、其他種々ノ事情ノ爲ニ本會議ハ獨立シテ之ヲ開催スルコト、ナシ内閣ニ上申シテ其決裁ヲ經タリ、即チ同年十一月十四日實行委員會ヲ組織シテ諸般ノ準備ニ著手シタリ、其職員左ノ如シ

名譽會長 農務大臣「ニランダー」 Nylander 農科大學總長「ルンドベルグ」 Lundberg

名譽委員 農科大學次長伯爵「ウハトマイスター」 Wachmeister 土地局  
總裁「フレデンベルグ」 Fredenberg 農務局長「ファイリツェン」 Feilitzen 農  
科大學長「ジューリン、ダンフェルト」 Juhlin-Dannfelt 教授「フレンケル」  
Frenckel 教授「フォンポスト」 Von Post

會長 高等商業學校地理學教授「グンナー、アンダーソン」 Gunnar Andersson.

書記官長 林業試驗場技師「ヘッセルマン」Hesselman.

會計長 「ストックホルム」大學教授「ベックストレム」Bäckström.

委員 瑞典地質調査所長「アンダーソン」Anderson 「ウルチユナ」農學校

教授「アレナンドー」Arenander 「カルマー」化學試驗所長「アッターベル

ヒ」Atterberg「ストックホルム」大學教授「ド、ジエール」De Geer 「シエンケビ

ング」泥炭耕地灌溉會會長「フアイリツエン」Reitzen 「ルレヲ」化學及生

物試驗場長「ヘルストレム」Hellström 「ホルムストレム」Holmström 地質

調査所技師「ムンテ」Munthe 「ストックホルム」中央農事試驗場農藝化

學部長「モーダーバウム」Söderbaum 「アルナルブ」農學校教授「ウワイブ

ル」Weibull 「ウルチユナ」農學校教授「ヴェスターベルヒ」Vesterberg 「ロ

ングバン」鑛山長「チヘルグ」Tihberg

本會議ハ其開催日迄ニ僅ニ半歲餘ヲ餘スノミニシテ諸般ノ準備甚タ  
多忙ヲ極メタルカ如ク、而モ尙能ク之ヲ完成シタル所以ノモノハ實行  
委員會特ニ會長、書記官長、會計長ノ處置宜シキヲ得タルニ據ルト雖モ

亦萬國地質學會議ニ於テ既ニ諸般ノ準備進捗セルモノアルト、及實檢旅行ニハ地質學會議ニ於ケル第四紀層及氷河ノ研究ニ資スル爲メ選定シタル地方ヲ選ヒタルトヲ以テナリ、蓋シ農地ニ適應セル地質ハ第四紀層ニシテ同國ニ於ケル此種ノ研究ハ甚々進捗シ本會議ニ於テ特ニ一冊ノ實檢旅行案内記ヲ編成シタリ、千九百十年三月初メテ第一回ノ通牒ヲ發シ同時ニ各國ニ其贊同ヲ求メテ本會議ニ出席センコトヲ促シ、尙前會長「ローチ」氏ヨリ各國政府ニ對シ第一回萬國農地地質學會議ニ於ケル決議ノ要領ヲ報告シ、本會議ニハ各國ニ萬國委員會委員ヲ參列セシムルコト、農地地質學萬國雜誌ヲ發行シ各國政府ニ於テ每歲貳百五十拾圓ヲ負擔スルコト、各國ニ於テ小縮尺ノ土性圖ヲ編成スルコトニ同意ヲ求メ其回答ヲ促セリ、蓋シ第一回會議ニ於テ萬國委員會ヲ組織シ本邦ノ代表者トシテ小官ヲ該會委員ニ選舉シタリ、小官ハ本邦出發一週日前ニ到着シタル報告書ニ據リテ始メテ之ヲ知レリ

會議ハ八月十七日ヨリ二十四日ニ至ル八日間開催セラル、其學術會議

ノ議題次ノ如シ

- 一 土壤ノ命名及其一般分類
  - 二 土壤ノ機械分析ニ際シ其大サニ關スル分類ノ決定
  - 三 土壤ノ化學分析方法
  - 四 農地地質圖法
- 會議前及會議後ノ實檢旅行ハ一二週間ニシテ概シテ地質學會會議實檢旅行ト同一區域ナリ

二 經費

經費ハ未タ明ナラサレトモ大要左ノ如シ

收 入		支 出	
政府支出	五、〇〇〇 <small>クローネ</small>	實檢旅行案内記編纂費	約二、五〇〇 <small>クローネ</small>
會社寄附	三、〇〇〇 <small>クローネ</small>	陳 列 諸 費	約一、〇〇〇 <small>クローネ</small>
個人寄附	二、五〇〇 <small>クローネ</small>	書記官長手當	一、〇〇〇 <small>クローネ</small>
合 計	一〇、五〇〇 <small>クローネ</small>	雜 費	約一、五〇〇 <small>クローネ</small>
		報告書出版費	約二、〇〇〇 <small>クローネ</small>

此ノ如ク其經費ハ甚タ小額ナルモ會員數、事業等ニ於テ之ヲ地質學會  
議ニ比スヘカラス

### 三 會 議

#### 組織及位置

會議ハ八月十七日ヨリ二十四日ニ至ル八日間瑞典國「ストックホルム」  
高等商業學校ニ於テ開會セラレ、其事務ノ一部ハ議會ニ於ケル地質學  
會議ニ於テ處理セラレタリ、是レ蓋シ會員ノ多數ハ地質學會議ノ會員  
タリシヲ以テナリ、其役員ハ前記述シタルカ如シ  
會議ハ委員會及總會ノ二トス、總會ニ於テハ學術ニ關スル事項ヲ討議  
シ、委員會ニ於テハ國際上其他ノ事項ヲ協議ス

#### 會 員

今回ノ會議ニ列席セル會員數ハ百三四十名ナリ、各國ノ政府、大學、學會  
等ヨリ派遣シタル委員ノ數二十餘名ナリトス、本邦人ニシテ本會議ニ  
列席セルハ麻生慶次郎、鈴木重禮及小官ノ三名ナリ、左ニ各國ノ會員數



及委員ノ概數ヲ掲ケン

總 計	芬 蘭	露 西 亞	瑞 西	諸 威	洪 牙 利	奧 太 利	伊 太 利	瑞 典	獨 逸	佛 蘭 西	英 吉 利	國 名	會 員 數	委 員 數
	三	一〇	三	一	一五	九	七	二九	二一	六	八			
會 員	一	三	一	一	三	一	一	一	一	一	二			
	一三三													
委 員	日 本	埃 及	ア ル ゼ ン チ ン	北 米 合 衆 國	ア ル ガ リ ア	葡 萄 牙	丁 抹 蘭	和 蘭	羅 馬 尼 亞	西 班 牙	白 耳 義	國 名	會 員 數	委 員 數
	三	二	一	二	一	一	二	二	四	一	二			
一 九	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二			

以上會員中約百八名ハ地質學會會議會員ナリ

### 委員會

委員會ノ組織ハ萬國地質學會議ト異ニシテ副會長、實行委員會委員并ニ特ニ指名シタル會員ヨリ成リ、副會長ハ十七日ノ第一回總會ニ於テ選舉セラレタリ

委員會ハ十八日及二十四日ノ兩日開催セラレ次回會議開催地并ニ其時期、農地地質學萬國雜誌發行ノ件、其他ノ事項ヲ協議シタリ、小官ハ副會長ニ舉ケラレタルヲ以テ本會議ニ列席スルヲ得タルモ地質學會議ト時間ヲ同ウスルモノアリテ僅ニ二十四日ノ委員會ニ遅刻參列シタルヲ得タルノミ、委員會ニ於テ議了セル事項ヲ舉クレハ

一 次回ノ會議ハ露國ノ招待ヲ承諾シ露都セントピートルスブルグニ開催スルコトニ決セリ、會議ノ時期ニ關シテハ種々議論アリテ或ハ三年ヲ可トシ、或ハ四年ヲ期シテ開催センコトヲ主張セル委員アリシモ、千九百十三年ニハ萬國地質學會議ノ開催セラル、アリ、而シテ本會

議ニ列席スル多數ノ會員ハ地質學會議ニ列席スヘキヲ以テ同時期ニ開催スルノ不利ナルヲ認め遂ニ本會議ハ千九百十四年ニ開催スルコトニ決セリ

二 農地地質學萬國雜誌發行ノ件ニ關シテハ曩ニ第一回會議會長ナル洪國地質調查所長「ロ」氏ヨリ各國政府ニ通牒シ其贊成ヲ求メタルモ各國政府ヨリハ概シテ未タ回答ニ接セス、而シテ本件ニ對シテハ各國政府ニ於テ異議ナカルヘシト雖モ其編纂方法并ニ經費負擔ニ關シ直ニ同意ヲ得ルニハ困難ナル事情アルヘク、遂ニ獨逸地質調查所平地部長「ウ」ワンシヤフエ氏ニ本事件ヲ依囑スルコト、ナリ、同氏ハ之ヲ承諾シ歸國ノ上之カ準備ニ着手シ及時機ヲ見テ之ヲ刊行スヘキコトヲ約セリ

三 小縮尺ノ農地地質圖編纂ノ件ニ關シテハ種々議論ノ末各國ニ於テ之ヲ編纂スルノ困難ヲ認め、次回會議ニ於テ露國「カルビンスキ」氏ヲ委員長トシテ之ヲ依囑スルコトニ決セリ

四 土壤ノ機械分析ニ關スル萬國委員會創設ノ件ハ各委員ノ贊同ヲ得、アツタベルヒ氏ヲ委員長トシ十五名ノ委員ヲ選舉シタリ

五 土壤ノ化學分析ニ關スル萬國委員會創設ノ件ハ各委員ノ贊同ヲ得、ブタバベストノシグモンド氏ヲ委員長トシ七名ノ委員ヲ選舉シタリ

六 歐洲ニ於ケル各種土壤ノ分類ヲ完成センカ爲メ委員會ヲ組織スルノ件ハ各委員ノ贊同ヲ得、ヘルシングフオルスノフロステルス氏ヲ委員長トシ露西亞、瑞典、諾威、丁抹、獨逸ヲ代表セル委員ヲ選舉シタリ

曩ニ第一回會議ノ際創設シタル萬國委員會ハ事實ニ於テ之ヲ成立セシムルノ甚タ困難ナルモノアリ、尙各事項ニ對シテ特別委員會ヲ組織スルノ優レルモノアリテ隨テ此際該委員會ハ之ヲ廢止スルコトニ決セリ

本會議ハ前年洪國政府ノ發議ニヨリ開催シタルモノニシテ其開會當時ハ國際的ナラス、卽チ洪國ヲ主トシ同國ヨリ各國ニ對シ其贊助ヲ求メタルニ創マリ、會議中第一回萬國農地地質學會議トナレルモノニシ

テ今回ハ其第二回ニ當リ議事其他ニ於テ未タ完カラサルモノアリ、會員ノ數モ亦甚タ少數ナリトス

### 總會

十七日

開會式 午前十一時高等商業學校ニ於テ開會、總理大臣「リンドマン」氏臨席、式ヲ舉ケ會員約七八十名參列ス  
實行委員會會長「アンダーソン」氏開會ヲ宣告シ、實行委員會ノ名ニ於テ茲ニ各國ノ多數ノ學者ヲ歡迎スルヲ喜フ旨ヲ述ヘ、土地ノ生命、變化ヲ掌ル規則ヲ研究シ生物殊ニ人類ノ爲ニ此等ノ事項ヲ研究スル諸君ノ本日瑞典國首府ニ會合セラレ、當國ノ地質學者ハ其結果當國ノ農地地質學ノ研究ニ大ナル效果ヲ附與スヘキヲ喜ヒ且ツ希望スルモノナリ、實ニ本會議ノ如キハ公私共ニ利スルトコロ甚タ大ナルヘキモノアルヘキヲ述ヘテ總理大臣ヲ演壇ニ應キ會議開會ヲ宣告スヘキヲ乞ヘリ  
茲ニ於テ總理大臣登壇、流暢ナル英語ヲ以テ茲ニ本會議ヲ開催スルヲ

喜ヒ、誠意誠心諸君ヲ歡迎スル旨ヲ述、ヘテ後、天產物ニ注意シ及天產物ヲ節用スヘキコトハ各國各人ノ共ニ唱道スル所ニシテ吾人モ亦之ニ努力セント欲ス、昨年洪牙利ノ首府ニ於テ各國ノ學者ノ集會セルハ此目的ニ外ナラス、蓋シ各國ニ於ケル事業ノ成績ヲ比較シ各國ニ共通ナルモノト否ラサルモノトニ就テハ特種ノ試驗ヲ要スヘク、殊ニ試驗ノ共通方法并ニ便法等ニ關シ各國之ヲ適用スルヲ得ハ事業ノ進行上大ニ便ナルトコロアルヘシ、語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ適當ニシテ精細ナル方法ハ研究ヲ速カナラシメ、各國ニシテ一樣ノ形式ニ依リ事業ヲ進捗シ同一ノ圖式ニ依リ同一ノ研究法ニ依リ事業ヲ進捗セシムルニ於テハ其效果ノ速カナルモノアラン、尙氏ハ本會列席者ニ對シ其勞ヲ謝シ農地地質學ノ進歩ヨリ瑞典國ノ斯學ニ對スル簡單ナル歴史ト著名ナル學者ヲ舉ケ、工業試驗所并ニ農事試驗場ノ設立ニ及ヘリ、氏ハ更ニ進テ現今瑞典國ハ未タ農業國ト稱スヘカラスシテ森林ヲ以テ蔽ハレタル所多ク、而モ森林ト土壤トハ其關係深ク森林學校ニ於テ之カ研究ヲ

忘ラス、加之泥炭培養會ハ政府ノ補助ヲ得テ其事業ヲ遂行ス、實ニ當國ニ於テハ農地地質學ノ必要ヲ感シ諸君ヲ歡迎スルモノ獨リ斯學ノ研究者ノミニアラサルヘキヲ述ヘ、茲ニ第二回萬國農地地質學會議ノ開會ヲ宣言シ得ルヲ喜フト結ヘリ

會長ハ農務大臣ヨリ發送セル祝電ヲ披露セリ、即チ同大臣ハ本日本會議ニ列席スルヲ得サルヲ悲ミ茲ニ會員諸君ヲ歡迎シ事業ト討議ニ於テ其成功ヲ望メリ、依テ同大臣ニ對シ回答スヘキコトヲ決議セリ  
 第一回農地地質學會議會長「ローチ」氏ハ本會ノ成立ニ對シ會長、副會長ノ選舉ヲ一任セラレンコトヲ述ヘ次ノ如ク之ヲ宣告シタリ

會長 「アングダーソン」教授

副會長 「アルベンチン」「カイデル」氏 白耳義「アンドリモン」氏

抹「ミュラー」氏 埃及「ヒューム」氏 英吉利「ホルランド」及「ランブル」

グ「ノ」兩氏 芬蘭「リンデル」氏 佛蘭西「ケウ」及「デバー」ノ兩氏 和蘭

「ヒシング」氏 伊太利「レグニ」及「カベリニ」ノ兩氏 日本井上氏

墨西哥「アギレラ」氏 諾威「ベールリケ」氏 葡萄牙「ケレロ」氏 羅馬尼  
「ムルゴチ」氏 露西亞「チエルニシエフ」氏「カルピンスキ」氏及「グリシカ」  
三氏 瑞西「フリユー」氏 西班牙「ヤルザ」氏 獨逸「ウワンシヤフエ」及  
「ラマン」ノ兩氏 洪牙利「ガルヤノヴ、クランベルガー」氏「シグモンド」及  
「ローチ」ノ三氏 奧太利「ヒブシユ」氏  
第一回會議ノ書記官長「インケー」氏ノ發議ニ依リ書記官長及書記官ヲ  
左ノ如ク指命セリ

書記官長 「ヘセルマン」氏

書記官 愛蘭「ハリシ」氏 伯林「レーデー」及「ストレム」ノ兩氏 「ブタペ

スト」「トライツ」氏

以上ハ會員ノ贊助ヲ經テ決定シ直ニ學術會議ニ入レリ  
「アンダーソン」氏ハ瑞典國ニ於ケル土壤并ニ其分布ニ就テ瑞典國ノ地  
質ノ大要ヨリ土壤ニ及ヒ其成分ヲ論シ、更ニ土壤ノ沈積ニ及ヒ氷河ノ  
影響ヲ述ヘ各土壤ノ分布ヲ示シ、六千年前ヨリ移住シタル瑞典國人民



ハ此土地ニ耕作シテ生活スルヲ得、土壤ノ貧瘠ナラサルヲ述ヘ降壇シ  
タリ、斯クシテ十二時半閉會

午後三時半開會

議題 土壤ノ器械分析

「アッタベルヒ」氏土壤ノ器械分析ニ就テ論シニ、「ミリメートル」以下ノ土  
壤ハ之ヲ五ニ細別スヘキヲ述ヘ、尙普通ノ器械分析ニ關スル方法ニ關  
シ意見ヲ陳シ、「ヴェグラー」、「ハラシー」、「リンデル」氏等ノ討議アリテ特  
別委員會ヲ組織スルコト、ナレリ、埃及ノ「ヒユーム」氏ハ、「ベーム」氏ノ講  
演ヲ代讀シ土壤ノ器械分析殊ニ埃及及「スーダン」地方ノ石灰質土壤ノ  
器械分析ニ就テ其實見ノ結果ヲ披露シ、白耳義ノ「アンドリモン」氏ハ地  
中ニ於ケル水ノ循環ニ就テ論シ其他一二ノ講演及討論アリタル後閉  
會シタリ

十八日

午前九時半開會

議題 土壤ノ「コロイド」

本研究ハ先年「ブダペスト」ニ於テ開會ノ際本會議ニ於テ特ニ講究スヘキコトヲ議決シタルモノナリ

(一) Raumann: Bedeutung der Kolloide für den Boden. (二) Hissink: Die kolloiden Stoffe im Boden und ihre Bestimmung. 氏ハ土壤ノ「コロイド」ヲ定ムル從來ノ方法ノ批評ヨリ其不完全ナルヲ述ヘ、二十年前和蘭ノ「ベメレン」氏ノ發見シタル方法ヲ詳述シ氏ノ意見ニ及ヒ特別委員會ヲ創設センコトヲ發議シ「グリーンカ」  
「ヴェスタールベルグ」  
「ストルム」  
「アッターベルヒ」氏等ノ討論アリ (三) Leopold: Der Geschiebelehm im niederländischen Diluvium アリタリ

午後ハ地質學會議ノ開會式アリテ本會議ハ開會セス

十九日

午前十時開會

議題 土壤ノ化學分析

(一) Sigmund: Ueber die Grundfragen der Zubereitung der Bodenlösungen für die chemische Analyse.

二 Vesterberg : Bereitung von Bodenextrakt für chemische Analyse. (三) Rindell : Ueber die Ermittlung der assimilierbaren Pflanzennährstoffe im Ackerboden 等ノ講演并ニ討議アリ  
タリ

二十日

午前十時開會

議題 土壤ノ命名及分類法

當日ハ前日ノ土壤ノ化學分析ニ關スル議論アリテ「ケーニグスベルヒ」「アッターベルヒ」「ヴェスタールベルヒ」「シグモンド」「リンデル」等諸氏ノ討論アリタル後本日ノ議題ニ入レリ

(一) Hilgard et Longbridge : The purpose and fundamental principles of soil classification. 氏ハ本會議ニ缺席セルヲ以テ「インケー」氏之ヲ代讀シ生物學及成因ヨリ土壤分析ノ基礎ヲ作ランコトヲ企テアリ (二) Kossowitsch : Ueber Bodentypen und die Grundprinzipien der genetischen Bodenklassifikation. 氏ハ露西亞ニ於ケル各地ノ土壤ノ數多ノ標本ヲ示シ土壤成生ニ對シ氣候ノ影響ヲ論シ (三) Inkey : De la

nomenclature et de la classification des espèces de sols. 氏ハ土壤ノ命名及分類ニ就テ論述シテ後命名分類ニ關シテハ人爲ニシテ實用的ノ方法ニ據ルノ外、現時未タ自然分類ヲナスノ程度ニ進歩セサルナリト結ヒ (四) Prostemis : Geop-  
tante agroycologische Untersuchungen in Finnland. 氏ハ芬蘭ニ於ケル土壤ノ研究ヨリ論シ瑞典、諾威及芬蘭ニ於ケル研究方法ヲ一樣ニシ調査ヲ進行スヘキ委員會ヲ組織センコトヲ提議シ二三ノ討論アリ、當日ハ特ニ露西亞學者ノ熱心ニ討議セルヲ見ル  
午後三時開會

午前ニ引續キ同様ノ討論アリ (一) Hume : The study of soils in Egypt. 氏ハ地圖并ニ幻燈ヲ以テ説明シ過クル七十年以來埃及ハ産業上ニ大ナル發達ヲナセリ、是レ「ナイル」河ノ治水ニ基クモノニシテ政府ノ施設宜シキヲ得タルヲ説キ、更ニ沙漠地ニ及ヒ「ナイル」河ノ治水ノ爲ニ農業上多大ノ利益ヲ得テ一千萬ノ農民ヲシテ利益アル收穫ヲ得セシムルヲ得ルニ至レリ、然レトモ尙研究スヘキ事項ノ存在スルモノアリ、埃及地質調査事

業ニ於テハ「ナイル」河ノ治水ニ關シ其變化ヲ研究スルヲ要務ノ一トセリト結ヒ (二) Atterberg: Neue Prinzipien der Bodenuntersuchung. 氏ノ講演ニ對シテ議論沸騰シ「アンドリモン」「ヒシング」「トライツ」ノ諸氏ハ熱心ニ討論シタリ

二十二日

午前ハ地質學會議ニ於ケル氷河後ノ氣候ノ變化ニ於ケル討議ニ出席スルコト、シ本會議ハ開催セス

午後三時開會

議題 土性圖ノ圖法并ニ泥炭質土壤ノ分析

- (一) Björlykke: Ueber die Prinzipien der Bodenkartierung. (二) Goryanovic-Krumberger: Eine Klimazonen Bodekarte Kroatien-Slavoniens. (三) Sander: Demonstration von Bodenarten zur oben genannten Karte. (四) Haglund: Ueber die botanisch-torfeologischen Untersuchungen des schwedischen Moorkulturvereins. (五) Feilitz: Ueber die chemische Analyse des Moorbodens für Kulturzwecke. 講演アリタリ

二十四日

午前十一時三十分開會

- (1) Dienty: Ueber die physiologische Rolle der Nährsalzmengen im Boden und die relativen Zahlen derselben. (2) Weibull: Ueber Pflanzennährstoffe, besonders Phosphorsäure und Stickstoff, in saurem Boden und ihre Bestimmung. (3) Vesterberg: Ueber einige Analysemethoden für Bodenuntersuchungen
- ノ講演及之ニ對スル討議アリタル後、議長ハ次回ノ會議ハ千九百十四年露都「セントピーターズブルグ」ニ開會ノコトニ決セル旨ヲ述ヘ一同ノ賛成ヲ得タリ、是ニ於テ第二回萬國農地地質學會議ハ結了シタリ、當日ノ議長「ヒシング」氏ハ本會議ニ助力セラレタル諸君ニ謝シ殊ニ會議會長「アンダーソン」教授并ニ書記官長「ヘッセルマン」氏ニ深謝スル旨ヲ述ヘ各會員拍手ノ内ニ本會議ハ閉會シタリ

### 會議附屬陳列、實檢旅行、會合等

#### 一 陳列

- 一 會議中特ニ陳列シタルモノハ南北兩極地方殊ニ北極地方ノ地質

標本、地質圖、報告書類等ナリトス、而シテ「スピツベルゲン」ヨリ採取セル標本類ハ其數ニ於テモ、其研究ノ點ニ於テモ第一位ニアリテ瑞典學者ノ大ニ此地方ニカヲ用キタルヲ知ルニ足リ、「スピツベルゲン」旅行前ニ於テ本陳列室ニ於テ同地方ニ關シ三回ノ講話アリタリ、右標本ハ地質調査所階上ニ陳列セラレ七月十五日ニ開館セリ

二 鑛力機械并ニ鑛山模型及地圖陳列ハ鐵鑛業調査會ニ陳列セラレ八月十七日ヨリ同月二十六日マテ開館セリ、地圖中「フアルン」銅山ノ地圖ハ千六百二十九年「スウアート」氏ノ測量セルモノニシテ最古ノ鑛山地圖ノ一タリ、又北部瑞典ノ大鐵鑛床「キルナヅアラ」鑛山模型及地圖等ハ注目スハキモノニシテ其他鑛山測量器械ノ變遷ヲ示セルモノ等アリ、共ニ學術應用上ニ裨益スルコト鮮少ナラス、十九日「テーゲンダレン」氏ハ特ニ之カ説明ヲ擔當シ、「ペーターソン」氏ハ瑞典國ニ於ケル鑛力測量ノ變遷ニ就キ陳述シタリ、八月十八日皇太子殿下ハ本陳列所ヲ巡覽アラセラレタリ

三 農地地質學ニ關スル陳列ハ土壤ノ標本及地質圖ヲ地質調査所階上ニ陳列若クハ掲載セリ、就中瑞典國特有ノ土壤ノ標式的標本并ニ山林學校及露國等ヨリノ出品ハ注意スヘキモノタリ、八月十七日ヨリ開館シ同午後二時特ニ農地地質學會議會員ヲ招待シ出品者之ヲ説明シタリ

以上ノ外地質調査所陳列館、學士院博物館大學、高等工業學校、農科大學及農業陳列館、中央農事試驗場、林業試驗場「ナシヨナルムゼウム」、動植物陳列館、北部陳列館并ニ鐵鑛業調査會及圖書館等ハ特ニ會員ノ爲ニ其縦覽ヲ便ニシタルノミナラス各日ヲ期シ會員ノ爲ニ館長又ハ理事者其陳列品等ニ就キ説明ノ任ニ當レリ

## 二 實檢旅行

萬國地質學會議 ノ前後并ニ會期中數多ノ實檢旅行アリ、而シテ氣候ノ關係上北部ハ會議前ニ、南部ハ會議後ニ於テ行ハレタリ、會議前ニ於ケル實檢旅行ハ其數八アリ、即チ深ク北極圈内ニ入レル「スピツベルグ



シ」ノ地質踏査ヲ始メ瑞典北部地方ノ變成岩、第四紀層、地相并ニ噴出岩等ノ研究ニシテ「スビツベルゲン」ノ實檢旅行ハ七月二十五日ニ初マリ八月十七日ニ終リ會員ノ數ハ豫定ヲ超過シ七十名ニ達セリ、小官ハ此實檢旅行ニ加入シタリ

會期中ニ於ケル實檢旅行ハ「ストツクホルム」附近ノ太古代岩層、第四紀層并ニ鑛床ノ研究及地相學等ニ關係スルモノニシテ十九日、二十一日、二十三日ニ於テ行ハレタリ

會議後ノ實檢旅行ハ八月二十六日ニ始マリ中部及南部瑞典并ニ「スカニア」ノ太古代岩層、古生代并ニ中生代ノ化石、第四紀層并ニ地相等ニ關スル研究、金屬鑛山ノ視察等ニシテ其數八アリ、小官ハ金屬鑛山ノ視察并ニ「スカニア」ニ於ケル古生代及中生代ノ化石地方ノ實檢旅行ニ加入シ、九月十三日「ルンド」ニ於テ實檢旅行ヲ終レリ

以上ノ實檢旅行ニハ會員ハ其專攻ノ學科ニ從ヒ各自ニ於テ撰擇之ニ加入スルヲ得ルモ實檢旅行地方ノ狀況、便否等ニ依リ其人員ニ限リア

リ、隨テ時ニ其目的ノ地方ニ旅行スルコト能ハサル場合ナキニアラサ  
レトモ實行委員會ニ於テハ瑞典人ヲ後ニシ外國人ニ便宜ヲ與ヘ此事  
ナキヲ得タルカ如シ、而シテ會議前後ノ實檢旅行ニ於テ人員ノ最モ多  
キハ「スピツベルゲン」實檢旅行ノ七十名内外ニシテ少キハ北部山地ニ  
於ケル五名内外トス、會期中ノ實檢旅行ハ會員ノ大部之ニ加入セルヲ  
以テ其人員二百名ニ達セルコト少カラス

萬國農地地質學ニ關スル實檢旅行ハ會議前ニ一、會議後ニ二アリ、會  
議前ノ實檢旅行ハ北方ニシテ地質學會議ニ於ケル第四紀層并ニ土壤  
ノ研究ニ關スルト同一ノ地方ナルモ本旅行ニハ特ニ土壤ノ研究ニ重  
キヲ置ケリ、會議後ノ二ノ實檢旅行ハ中部瑞典ニシテ共ニ土壤ノ調査  
ニ從事シ其期間ハ八九日間ナリ、會期中ノ實檢旅行ハ十九日、二十一日、  
二十三日ニシテ「ストツクホルム」近郊ノ第四紀層地方ヲ踏査シタリ

### 三 招待及各種ノ會合

會期中數多ノ招待并ニ會合アリ、其主要ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

八月十八日 萬國地質學會議開會式終了後午後四時ヨリ宮城ニ於テ國王陛下ノ招待茶話會アリ、地質學會議會員、農地地質學會議會員ハ固ヨリ各國ノ大使、公使等亦招待セラレタリ、應召者七八百名、別室ニ於テ茶菓ノ饗應アリ、國王、皇后兩陛下并ニ皇太子殿下親シク會場ニ臨マレタリ、小官ハ特ニ兩陛下并ニ皇太子殿下ニ謁シ握手ノ榮ヲ得、種々御下問ヲ辱フセリ

八月十六日 農地地質學會議實行委員會會長「アンダーソン」氏ハ農地地質學會議會員ヲ招待シテ晚餐會ヲ催セリ、開宴中氏ハ各員ニ對シ歡迎ノ辭ヲ述ヘ會議前ニ互ニ相知ルヲ喜ヒ、更ニ進テ農地地質學ノ問題ニ入り其解決ハ應用上最モ必要ナル旨ヲ述ヘタリ、小官ハ未タ實檢旅行ヨリ歸來セサリシヲ以テ本會合ニハ列席スルコト能ハサリシモ麻生、鈴木兩氏列席シタリ

八月十七日 「ストツクホルム」地質學會ハ萬國地質學會議會員及農地地質學會議會員、各國大使、公使等ヲ招待シ晚餐會ヲ催セリ、會スルモノ

八百名ヲ超エ廣大ナル帝國「ホテル」ハ殆ト人ヲ以テ充タサレタリ、午後九時ニ垂ントスル頃地質學會會長「ヘグボム」氏ハ該學會ヲ代表シ茲ニ諸君ヲ歡迎スルヲ得タルハ甚タ榮譽トスル所ニシテ世界各國ヨリ來集セラレタル有名ナル地質學者ト會合スルヲ喜ヒ、更ニ進テ當初ノ企劃ニ及ヒ、始メ「ストツクホルム」地質學會ノ萬國地質學會議ヲ此國ニ招待シテ會議ヲ開催シ及實檢旅行ヲ施行スルニ於テハ萬事歐洲ノ中心其他ノ國ニ於ケル前會議ノ如クナル能ハサルハ明ナル事實ナルモ、而モ各國ヨリ來集セラレタル諸君ノ我瑞典國ノ如キ邦國ト相知ルニ至ルハ趣味ナキコトニアラサルヘキヲ信シ、當國ノ地質構造ハ遠ク世界ノ歴史ヲ追想スルヲ得ルト共ニ氷河并ニ第四紀ニ於ケル變化ヲ知ルヲ得ヘク、尙鐵鑛其他ノ鑛物ハ應用上并ニ學問上注意スヘキモノナルヘキニ想到シ會議開催ヲ決意シタルニ果シテ此事實ノ誤リナラサリシヲ喜ヒ、深ク實檢旅行ノ徒勞ニアラサリシヲ満足スルモノナルヲ述ヘ、尙當國ニ於テハ以前ノ會議ニ於ケルカ如ク華美ナル接待ヲ爲ス能

ハサルモ友愛ノ情ニ於テ劣ルコトナキヲ表白シ會員諸君ノ此國ニ來會セラレタル好紀念ヲ齎ラサレンコトヲ望ミ、親愛ナル訪客并ニ地質學會議ニ向ヒテ歡喜ノ意ヲ表セリ、氏ノ歡迎ノ辭ハ非常ナル喝采ヲ以テ終リ、斯クシテ各員歡ヲ盡クシ退散セルハ午後十一時ナリ

八月十八日 午後七時ヨリ第一部一般地質并ニ地方地質、第二部應用地質、第三部層位學并ニ化石學、第四部水河、第四紀ノ現象ノ四部會ニ分レ會合アリ、小官ハ第二部會ニ出席シタルモ尙他ニ少數ノ學者ト共ニ招待セラレタルヲ以テ午後七時辭去シタリ

八月二十一日 實檢旅行ノ歸途一部ハ「ウブサラ」大學ノ招待ニ應シ、一部ハ「ニネース」ニ於ケル「シヨグレン」教授ノ招待ニ趣ケリ、前者ハ主ニ化石學者ニシテ後者ハ鑛物、岩石并ニ鑛山ニ趣味ヲ有スル學士タリ、小官ハ「シヨグレン」教授ノ招待ニ與レリ

八月二十四日 午後五時「スカンセン」ニ於テ地質學會議ノ招待會アリ、會スルモノ五百名ヲ超ユ、同所ニ於テハ同國固有ノ歌舞音樂アリ、終テ

午後七時ヨリ三箇所ニ於テ晚餐ノ饗應アリ、午後九時一同屋外ニ參集セリ、書記官長「アンダーソン」氏ハ會議ノ無事ニ結了シ會員諸君ノ援助ニ依リテ效果ヲ舉クルヲ得タルヲ謝シ併セテ訣別ノ意ヲ表セリ、佛國ノ委員「テルミエール」氏其他英獨ノ委員之ニ對ヘ、午後十一時散會シタリ

### 結尾

前述セルカ如ク今回ノ萬國地質學會議ハ未曾有ノ盛會ニシテ出席會員ノ數六百名ヲ超過シ、國王陛下親臨シテ其式ヲ舉ケラレ皇太子殿下名譽會長トシテ開會當日ノ議長タリ、研究事項ハ前回ヨリ繼續セルモノ、外瑞典國ニ特ニ發達セル太古代ノ岩層、第四紀ノ現象、氷河并ニ鐵鑛等ニ就キ研磋商究シ其學術ニ貢獻スルコト大ナルモノアリシハ言フヲ須キサルナリ、國際上ノ問題ハ前回ヨリ繼續セルモノ、外、縮尺百萬分一萬國地質圖編成ノ件、鐵鑛調査ノ件、層位學字書編纂ノ件、人類化石研究ノ件等ヲ決議シ委員ヲ囑託シ、火山研究所設立ニ關シテハ各國

政府并ニ個人ノ好意ニ據ルコト、シ本會議ハ之ニ關與セス、地皮褶曲ノ研究ハ今回ノ會議ニ於テ鐵鑛并ニ氣候ノ變化ニ關スル研究ヲナセルト同一ノ方法ニ據リ、次回ノ實行委員會ニ一任スルコトニ決セリ、實檢旅行ハ瑞典本國ハ固ヨリ遠ク北極圈内ニ入レル「スピツベルゲン」ニ及ヒ會議ノ前後ニ各八ノ實檢旅行ヲ企劃シ學術上ノ研究ト相待テ遺憾ナカラシメタリ、而シテ次回ノ會議ハ千九百十三年加奈太ニ於テ開催スルコトニ決セリ

農地地質學會議ハ萬國地質學會議ノ開催ヲ好機トシテ開催セラレタルモノニシテ會員ノ數少ク出席會員百名内外ナリ、研究事項ハ土壤ノ命名及一般分類、土壤ノ機械的并ニ化學的分析、農地地質圖法ナリトス、國際上ノ問題タル土壤ノ機械的及化學的分析ニ關シテ研究ヲ繼續スルコト并ニ歐洲ニ於ケル土壤ノ分類ヲ完成セシムルコトハ各委員ヲ囑託シ、萬國雜誌刊行ニ關シテハ獨逸ノ「ウソンシャフエ」氏之ニ當ルコト、ナリ、本會議ハ直接之ニ關與セス、小縮尺ノ農地地質圖編成ニ關シ

テハ次回ノ主催國タル露國ニ於テ之ヲ攻究スルコト、ナレリ、實檢旅行ハ會議前一、會議後二アリシニ過キス、而シテ次回ノ會議ハ千九百十四年露國ニ於テ開催スルコトニ決セリ

要スルニ歐洲ノ中心ト言語ヲ異ニセル瑞典國ニ於テ今回ノ如ク其研究ト并ニ其設備ニ於テ殆ト完キヲ得タル所以ノモノハ實行委員會會長、書記官長、會計長等ノ精勵ト苦心ニ據ルモノナリト雖モ同國ニ於ケル官民諸氏ノ協力シテ本事業ヲ援助シタルモノ蓋シ亦多キニ居ラン



明治四十四年六月廿六日印刷  
明治四十四年六月廿九日發行

定價金四拾錢

著作權所有 農務省

印刷者 田中市之助  
東京市神田區通新石町三番地

印刷所 東陽堂支店  
東京市神田區通新石町三番地

發賣所 東陽堂支店  
東京市神田區通新石町三番地  
電話(本局九七〇)

# 地質調查所新刊圖書

## 地質調查所報告第十八號

長崎縣西彼杵郡松島煤田地質調查報文 (附圖三葉)  
相模國山北附近地質調查概報 (附圖一葉)

## 同 上第十九號

明治四十二年ニ於ケル本邦ノ石油業  
遠江國相良産石油試驗報文  
越後國勝見産石油試驗報文  
越後國新津産石油精製試驗

## 同 上第二十號

明治四十二年度事業報告

## 同 上第二十一號

宮川油田  
新津油田噴油狀況調查報文 (附圖二葉)  
明治四十一年度ニ於ケル鑛産

## 同 上第二十二號

有珠嶽火山破裂調查概報 (附圖七葉)

## 同 上第二十三號

木曾御料地々質調查概報 (附圖四葉)  
苗木附近砂錫採取地調査報告 (附圖一葉)  
畑石の分析成紋山 (附圖四葉)

## 同 上第二十四號

本邦ニ於ケル鐵鑛 (附圖八葉)  
朝鮮ニ於ケル鐵鑛 (附圖一葉)  
南滿洲ニ於ケル鐵鑛 (附圖一葉)  
清國ニ於ケル鐵鑛 (附圖一葉)

定價金八拾五錢

大藥技師  
加藤鐵之助  
定價金六拾錢

伊木技師

河村技師  
清水技師  
定價金四拾貳錢

井上所長

定價金壹圓拾錢

伊木技師  
井上技師

定價金六拾參錢

佐藤技師

野田技師  
野田技師  
野田技師  
杉浦技師  
定價金壹圓五拾四錢

井上技師

井上技師  
井上技師  
井上技師

## 發賣所 東陽堂

東京市神田區通新石町

# 地質調查所新刊圖書

地質調查所報告第二十五號

明治四十三年度事業報告

礦物調查報告 第一號 (北海道之部)

明治四十三年度礦物調査ノ概要 (附圖六葉)

同 上第二號 (北海道之部)

渡島國龜田半島鑽床調査報告 (附圖七葉)

同 上第三號 (北海道之部)

膽振國勇拂郡勇拂油田調査報告 (附圖六葉)

同 上第四號 (北海道之部)

日高國沙流川流域調査報告 (附圖一葉)

日高國「メカヒラ」川流域調査報告 (附圖一葉)

日高國新冠、靜内、三石三郡地方調査報告 (附圖一葉)

日高國南部及十勝國廣尾郡調査報告 (附圖二葉)

同 上第五號 (北海道之部) (附圖十一葉)

膽振國勇拂郡鶴川流域調査報告

渡島國濁川油田調査報告

日高國門別川波惠川慶能舞川及厚別川流域調査報告

日高國元浦川流域及浦河附近調査報告

十勝國廣尾郡及河西郡地方調査報告

石狩國空知川支流「ヤマエ」「トナシユベツ」調査報告

附十勝石狩國道筋地質調査報告

井上所長

定價金四拾五錢

定價金六拾參錢

伊木技師

定價金九拾八錢

大日方技師

定價金七拾錢

小林技師

定價金壹圓七錢

岡村技師

伊木技師

岡村技師

山根技師

定價金壹圓八拾錢

小林技師

伊木技師

伊木技師

岡村技師

山根技師

發 賣 所  
東 陽 堂

東京市神田區通新石町